

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
1	4	2	全体 意見反映	②現役の教員の方々の意見はどれ程反映、取り入れられているでしょうか。先生たちが、現状抱えている課題への対策が盛り込まれた計画になっているかどうか、大変重要かと思えます。素人の市民が意見言うことも一つ意味はありますが、現役の教員の方々の意見は、現場にてリアルに課題を感じられていると思うので、できるだけ教員の方々が働きやすい、よりより学校になるようなアイデアを沢山盛り込みたいです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校の校長は新しい学校づくり検討会の委員として検討に入っています。また、教職員にはアンケート等のヒアリングを実施しています。さらに、毎年教職員を対象に先進地の義務教育学校の視察をしており、すでに3年間で55名の教職員が参加しています。実際に9年間の教育課程における授業や生活、特別支援教育、養護教諭の環境など、視察したことを通して出された意見を参考に案を作成しています。設計時にはさらに具体的な内容について教職員とヒアリングを行う予定です。</li> <li>パブリックコメントのご意見により、必要に応じて本計画を修正します。また、意見内容によっては設計の参考にさせていただきます。</li> </ul>	なし	
2	57	1	全体	このパブコメの意見が、何人の方から、このような意見が出ました。で、終了するのではなく、大事に扱い、もう1度振り返り、市民と協働で推進する「基本構想・基本計画」であって欲しいと、切に願う。			
3	4	1	全体 イメージモデル	①基本構想、基本計画を作成する上で、イメージ・モデルとしている学校があれば教えてもらいたいです。文字ベースでの説明文だとイメージがしにくかったりするところもあるので、よりイメージできるためにもモデル校的なものがあると、目指している学校像もわかりやすいと思いました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで視察に行かせていただいたつくば市、京都市、瀬戸市などさまざまな校舎を参考としています。ご指摘のとおり写真等があるとイメージしやすいので、市民に情報提供する際には、イメージを持っていただくよう参考として先進事例をご紹介します。</li> </ul>	なし	
4	4	7	全体	私の子供も義務教育学校に通う予定のため、構想・計画は全て読ませてもらい、投稿させてもらいました。お忙しい中大変恐縮ですが、大変重要な事業のため、是非、この街の強い魅力になる学校作りをしていてもらいたいです。お力になれることがあれば、いつでもご協力させていただきます。日本一素敵な学校作りを目指したいです。宜しくお願い致します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画を実現するよう努力してまいります。</li> </ul>	なし	
5	10	1	全体	「ワタシ」を大切にしていくところに共感をもてた。まずは、「自分っていいな」と思える実感を味わってもらえるようにしていけたら、自信にもつながるだろう。また、場の設定も特別支援学級と通常級へのつながりを意識した内容があり、安心した。横とのつながりも感じられてよかった。			
6	15	1	全体 期待	子供たちが生き生きと学べる学校になるといいですね。地域とのつながりをこれまで以上に大切にしていってほしいと思います。			
7	16	1	全体	義務教育学校の校舎や設備が小学校の児童、中学校の生徒、教員にとって使いやすく、居心地のよい所であってほしいと思います。そうすることで、児童生徒が安心して豊かな学びができるようになると思います。			
8	17	1	全体	校舎や施設が使いやすく、子供も教職員も過ごしやすい学校になればいいと思います。			
9	21	1	全体	次世代を考えた構想・計画になっていると思いました。教室、図書室、さまざまな活動場所についてもとても考えられていると思いました。しかし、今物価高騰や子どもの人数の減少などの問題もあるため、本当に可能な施設にしていきたいです。			
10	13	1	全体 子ども主体	今現代を生きる子供たちに合った、子供たちが通いたくなる学校にぜひしてほしいです。それについて、いろいろな特性のある児童にとっての居場所が考えられておりいいなと思いました。(整備方針の「ワタシの居場所」)			
11	14	1	全体	子供たちの楽しい学校づくりが実現すると思います。			
12	24	1	全体	わたしがという子供主体の考え、感覚を意識しているところがいいと思います。			
13	18	1	全体 推進	小中を一貫して育み、教育活動を行っていくという方針は、見えない不安も大きいですが、それ以上に金銭面や、人員不足の面でも大きく助けになるように思う。なので、あらゆる方向から見直し、考えた上で計画を進めていって欲しい。			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
14	6	1	課題は山積みかとは思いますが、先進地視察をしてきて、ここはこうした方がよいといただいたアドバイスは極力反映(実態が違うと難しいかもしれませんが…)させていってもらえたらと思います。			
15	7	1	通学方法など、距離の基準が出ていますが、具体的にどの道路で区切るとか、給食のワゴンなどをどのように搬入するとか、これから細かく決めていくことがたくさんあると思います。また、職員人数や勤務体制など、現職員は気になることが多くあると思います。 校舎の教室配置など、興味がありますので、決定したら見たいです。 これからの子供たちが有意義な学校生活を送るためにも、何回も審議、相談、修正をして、素晴らしい教育環境にしていきたいです。			
16	41	1	全体 進め方 静大の先生等の学識経験者の意見も分かりますが、異論を持つ先生方の話、意見が挙げられず方向性、実現性、実際に通う子供達に本当にメリットがあるか、この時勢先生方が対応できるか等など解決しなければならない点、疑問点は山程あるかと思えます。 タイムスケジュールも大切ですが、それに捉われず、構想→実現シミュレーションを経てから次のステップへと進み市民にも理解出来る進め方を、考えていただければと思います。 現在の状況では、なるほどとは言い難いです。 時期は遅れてでも、現実性のあるものにしていただきたい。 人それぞれ考えがあると思います。 教育の場に広いコミュニティ場が必要か？ 牧之原市にそれだけの財政があるのか？ 限りある予算で本当に実現するのか？ 言ってる事と実現に差が出ないか？ やってみなければ分からないを少しでも減らせるよう、また市民に納得させるよう勧めたいです。 いろいろ勝手に述べさせてもらいましたが、よろしくをお願いします。	・議論を重ね、よりよい学校施設をつくってまいります。	なし	
17	28	1	2 背景 語彙説明 第1章 目的と位置付け(p2) 2 背景 ・「キャリア教育」「起郷家教育」と言う言葉が出てくるが、これらは、牧之原市が目指す義務教育学校の肝になる部分と思うので、牧之原市民にわかりやすく説明を加えてほしい。	「キャリア教育」及び「起郷家教育」は大切な部分ですので、注釈にて説明をさせていただきます。	第1章目的と位置付けの注釈に説明を追加	P2
18	36	1	7 5年生からの部活動などへの参加 教職員の関わり方 第2章 条件整理 2 特性に応じた教育活動 (2) 5年生からの部活動などへの参加(検討中) →教職員の多忙化解消のため、また教員志望の子ども・学生に「ブラックな職場環境」のイメージを払拭し適正な働き方であると捉えてもらうためにも「教育課程外」の部活動は学校教育から切り離す良い機会かと思えます。義務教育学校の教職員が部活動を担当しないことを議論してほしいと願います。私が知る限りでは、名古屋市は小学校の部活動が全面的に民間に移行終了、掛川市は中学校の部活動の地域移行が時期を定めて進められています。	・部活動の地域移行については、牧之原市でも現在検討しています。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
19	25	1 8校地選定	<p>校地選定方法</p> <p>特に、用地選定について、意見をします。                      用地選定委員によって、相良、榛原候補地より選定されたが、この間広報等により、市民に知らせたが、決定後に市民には広報等のみの情報提供のみで、市民説明会は行われていません。(学校跡地利用は別)                      ここで多くの疑問点があるので、陳述します。                      まず、ここ牧之原市は「東海・東南海・南海トラフ地震」想定域にあります。そして、市民約4万5千人うち最悪1万5千人の死者数が被害想定されています。そこで、用地選定においては、学校施設の「防災・安全」が最優先されるべきです。                      ①候補地選定にあたっての評価基準について、                      12年前の「3・11東北大地震」で学校教育関係で、は多くのことを知らせました。</p> <p>1 石巻市大川小学校の悲劇                      石巻市大川小学校は海岸から3.7kmの川沿いに建てられていました。74名の児童と10名の教員が亡くなり(不明者を含め)4名の児童と、1名の教員しか逃げ切れませんでした。                      榛原候補地、海岸から約2.5km、勝間田川沿い                      相良候補地、 2.8km 菅ヶ谷川沿い</p> <p>2 釜石の奇跡                      防災教育・訓練により、小中学校児童生徒、地域住民の協力により、高台への避難ができた。</p> <p>3 原発災害・放射能からの避難                      地震災害発生、一次避難と、放射能からの2次避難の必要。避難経路の確立、(水没しない、高台尾根・道路など、)                      以上の3・11の教訓より、今回の選定評価基準は、防災(安全性)の配点が低すぎる、評価配点の半分が相当と考えられる。(情報公開では、評価基準の配点の根拠資料が分からないとのこと)</p> <p>以下配布資料より、独自修正評価配点によれば、高台移転の方が有利とも考えられる。                      ②田地選定は、総合評価シートでは問題があるのでは？                      10名の選定委員の互選で候補地から選定されたと考えたが、実際は、すべての点を合算した無謀な候補選定ではないか。                      つまり、「山側と海側」の候補で、9名が各自「100点 対95点」で「山側」を選んでも、1名が「海側」を「50点 対100点」で選べば、総合点で、「海側」となってしまう。                      ここで数字のマジックを使う事はない。                      ③個別総合評価シートを見て                      あまりにも「ばらつき」が多い！これが討論会合を経ての事なので、(初見の評価ならわかるが)選考委員間で、認識の違い、評価の差がありすぎるのは、結論が早すぎたのではないか？十分な審議がなされていない証拠となる。                      ④最後に、昨年6月の倉斗綾子准教授の講演会で、陸前高田東中学校が高台移転と同じように、配布資料での、榛原「ぐりんばる周辺」相良「い〜らから、総合グランド周辺」の高台を予想していた先生に、来年2月の講演会で、川沿いの低地に決まったことを「笑われなければいいが？」</p>	<p>・学校用地選定委員会では、専門家、自治会、保護者、教職員の代表により組織され、現地確認やさまざまなデータから検討をしています。評価をする際には、他と比べ安全性(防災)の配点を高くしてありますが、教育活動のしやすさ、実現性等さまざまな視点から評価した結果となります。榛原中学校は津波浸水想定区域外であり、河川の洪水に対しても浸水しない高さにします。大雨が予想されるときは休校にする、早めに下校させる等、現在同様の対応をしていきます。</p> <p>・子どもたちの自宅の場所は学校の場所が変わっても変わりませんので、津波浸水想定区域から通う子どもたちは一定数います。防災教育や訓練は大切であり、牧之原市のキャリア教育でも「命と防災」を1つの柱としています。引き続き防災教育には力を入れていきます。</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見 番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ペー ジ		
20	47	1	立地	2030年プラス5年、マイナス5年、2025年から35年の間に南海地震が起きる可能性があるといわれています。石橋克彦『南海トラフ巨大地震』によると、駿河湾トラフが震源地になったとき、20mから32mの津波が発生する。地震発生から津波が来るまで5分かからない(2011.3.11東北地震の時は発生から津波が来るまで40分)そうです。今、学校予定地としている所は海拔10mくらいの所ではないでしょうか。完成予定の2030年に地震が来たとき、今予定している場所で大丈夫なのでしょう。	(前項と同じ)	なし		
21	30	3	ぐりんぱる	・防災面でなぜ山側の地域の人たちが海に向かうのか？素朴な疑問です。遠い地区の保護者にとっては心配不安しかない。用地選定の条件に地域の理解を得るとあるが到底理解されてるとは思えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の榛原中学校は旧榛原町地域の各区の概ね中間にあります。地域にあった中学校を再編し現在の榛原中学校を建てる際に地域が合意した場所であることから、地域の理解を得られやすい場所だと評価されました。</li> <li>・ぐりんぱるは、都市計画決定された運動公園であり、この場所に学校を建てる場合は、先に同面積の運動公園を整備する必要があります。ぐりんぱると同面積の敷地を新たに用意することは難しく、またその費用はかなり高額になります。その他、ぐりんぱるを学校用地にする場合は、進入路の拡幅が必要であり、高台にあることで徒歩・自転車で通学する子どもたちの負担も大きいとの理由もあります。</li> <li>・詳細は「学校用地候補地選定報告書」をご参照ください。 (<a href="https://www.city.makinohara.shizuoka.jp/site/kyouiku/48303.html">https://www.city.makinohara.shizuoka.jp/site/kyouiku/48303.html</a>)</li> </ul>	なし		
22	11	1		8校地選定				構想自体は良いと思います。 ただ、榛原中跡地ではなく、ぐりんぱるなど高台に建てた方が安心だと思えます。
23	48	3		地盤の心配				数年前に耐震工事もすんでいるので、私は今のままの学区・学校でよいと思っているが、どうしても一貫校で榛原に1つというのであれば、絶対に今の榛原のところに建てるのは反対です。かさ上げして済むことではない。あそこはズブズブです！
24	49	1		子供の少ないのは、わかります。でもあの田んぼを埋め立て学校を建てるのは考えものです。町の人々の意見を聴いているのでしょうか？私は反対です。				
25	55	5	牧之原台地	・建設予定地→本当に考えるなら、牧之原台地に建設するのはどうか。立派な理想の校舎もいいが、安全に登下校できる学校を望む。	・相良地域、榛原地域共に津波浸水想定区域外の立地としています。できるだけ子どもたちの負担を減らすことができるよう、多くの子どもたちが徒歩・自転車で通うことができる場所とするため、相良地域は市街地の近接地、榛原地域は現在の榛原中学校としています。防災面、交通面の両方の安全性を十分検討し、安全に登下校できる学校にしていきます。	なし		

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
26	4	3	③徒歩通学を2.5km以内とした理由を知りたいです。低学年だと40分以上時間を要すると思うため、少し長く感じました。基準があれば知りたいです。			
27	35	3	1, 2年生のバス通学について希望制となっていますが、募集にあたっては「遠い子を優先して、選ばせていただきます。」などの注意書きが必要だと思います。	<p>・文部科学省における遠距離の考え方は、小学生4km以上、中学生6km以上となっています。現在、牧之原市では遠距離の考え方を独自に定め、小学校1～2年生は2.5km以上、3～6年生は3km以上を遠距離としています。新しい学校では、1～2年生については、希望すればすべての子どもがバス通学ができるようにし、3～6年生についても現在より短い距離とすることで子どもたちの負担を軽減したいと考えています。また、中学生については現在試行的にバス通学を行っている学校もありますが、かなりの遠距離でも基本的には徒歩又は自転車通学となっています。新しい学校では6km以上はバスを利用することができるようになります。</p> <p>・通学方法の基本的な考え方の中では、地区全域がスクールバスの対象地域となる地区のみ分かりやすいように載せています。勝間田地区を含む、今回記載がない他の地域については、距離での判断となりますが、実際は通学路の高低差、班や組単位で通学方法をそろえる等、開校4～5年前から具体的な検討をして決めていくため、今回は記載しません。</p> <p>・スクールバスは、40人乗りの大型バスと想定した場合には、相良地域11台、榛原地域14台を想定していますが、実際に通学する児童生徒数やバス通学を希望する1～2年生の人数により台数は前後するものと考えます。</p> <p>・スクールバスに掛かる補助金についてお答えします。スクールバスの購入費については、1台あたり370万円の補助があります。小学生4km以上、中学生6km以上の子どもたちに対応した台数分が補助の対象となっています。また補助金ではなく普通交付税措置として1台につき600万円が毎年交付されます。スクールバスの購入にあたっては多くの費用が必要となりますが、国から普通交付税をいただくことで、購入費及び運営費に充てることができます。</p> <p>・現在運行している片浜地区を対象としたスクールバスは、45人乗りの大型バス1台です。朝一便、帰りは教育活動の状況に応じて1～3便の運行となっています。委託料や修繕料を合わせた年間費用は約370万円で、1台分の普通交付税措置を受けています。</p>	なし	
28	28	2	第2章 条件整理 (p9) 第3 通学方法について ・【通学方法の基本的な考え方】④の文章に勝間田地区の一部地域(切山、最明寺、勝田、勝間地区等)等該当地区を加えてほしい。			
29	42	6	・スクールバスに関して、2年生まで距離に限らず希望制とありますが、雨天のことを心配して近距離でも多くの希望者が出るのが予想されます。バスの空き状況などから、地区によって条件により選別をするなどの記載をしての募集が良いと思います。 (個人的には、1.2年生でも1.5kmは徒歩通学でよいかと思います。)			
30	26	1	9 通学手段と対象距離 スクールバス スクールバスについてお尋ねします。 ①スクールバスの利用は無償とのことですが、スクールバスの運行は何台を予定していますか？ ②スクールバス運行の費用は年間いくらを想定していますか？ ③スクールバス運行の費用の内、国の補助金はいくらですか？ ④スクールバスの補助金の対象は総額に対してですか、あるいはバス1台に付きですか？ ⑤スクールバスの補助金には限度がありますか、それは金額ですか、台数ですか？ ⑥スクールバスの補助金には期間に限度がありますか？ ⑦現在片浜地区で運行されているスクールバスの内容、費用、補助金を教えてください。			
31	27	1	2.5km以上はスクールバス通学で無償とのことですが、国のスクールバス補助金の対象は4km以上なのではありませんか？			
32	54	1	学校再編に関わる予算(例えばスクールバスの買上げ費用、人件費)等について、市民の負担はどうなるのか心配である。			
33	19	2	通学路については「開校準備の段階で検討する」とあるが、道路管理者である建設課の予算が限られる中で現状学校施設整備予定の大沢インターチェンジ周辺の道路整備予算が確実に確保される保障がない中でなぜ中心市街地から奥まった場所に整備を検討しているのか疑問である。また、大沢インターチェンジ付近は通学時間に市内外への通勤者が多く通行することもあり交通事故の危険性が現状よりも高くなるのが想定される。通勤通学の安全性を確保するため速度制限やゾーン30等の指定を検討し静岡県警察等との連携を検討してほしい。			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
34	4	4	④相良地域のコンセプトが決まった経緯を知りたいです。なぜ、夢、がキーワードになっているのでしょうか。				
35	4	6	②上記の質問でも記載した相良地域のコンセプトについて、「夢」をキーワードとしているように見受けられます。大人がよかれと思って、子どもが夢を持っているか質問することはよくあると思いますが、「夢を持っている子=よい子、夢を持っていない子=残念な子」というレッテルが無意識に貼られがちです。端的に使う単語としては、難しく危険な単語に思います。希望につながる、希望を持てる、とした方が、現代の夢教育に近いと思います。夢をキーワードにしない方がよいと思います。ご検討頂きたいです。(参考:https://toyokeizai.net/articles/-/98497)	<p>・コンセプトは、自治会や保護者、教職員などの市民代表で組織された「新しい学校づくり検討会」にて検討し、意見を集約して決定したもので、地域の思いを取り入れたものとなっています。検討の詳細は市ホームページ(第4回検討会)をご参照ください。 (https://www.city.makinohara.shizuoka.jp/site/kyouiku/49836.html)</p> <p>・子どもたちが夢に向かって必要な力をつけることができたり、この学校での人の関りやさまざまな体験を通しての共感や感動が、卒業後の子どもたちが自分の夢に向かって進む原動力になってほしいとの願いから「夢」がキーワードとなっています。在校時に夢がなければいけないということではなく、在校時に夢がなくても、この学校での経験が子どもたちの将来の糧や拠り所となってほしいとの思いがあります。</p> <p>・「みんなの学校」にはすでに地域が含まれています。みんなの学校は、学校、地域、家庭がみんなで子どもを育み、それに関わる大人も育つという意味と地域の活動の拠点となるという意味があります。義務教育期間に地域の方に関わっていただき、多くの人と出会い、さまざまな体験をすることが子どもたちの基礎をつくり、将来どんな社会になってもどこにいても自分らしく生きることができるように考えます。新しい学校では教職員や専門スタッフも増えますが、地域が広くなった分、ぜひ多くの地域の方に学校に来ていただき、子どもたちの成長を一緒に見守っていただきたいと思います。</p>	なし		
36	40	1	12 学校施設のコンセプト	<p>相良地域 牧之原市の子どもたちの未来が明るいものであり、学校が地域とつながって地域の力にもなることを願っています。「みんなの学校」の共通コンセプトは私たちの願いでもあります。相良地域のコンセプトにももっと「地域とともに」がはっきり打ち出されるといいと感じます。 学校が身近にある地域に住みたいと願う人は多いと思います。学校とつながることが地域の住民の生きがいにもなります。新設される学校が遠い地域は、遠くにある学校と地域がどうつながるかを見通した視点が必要だと思います。それに向かって、現在の学校や学校跡地の活用も含めて、専門家の意見のもとに進めてほしいと思います。グローバルな世界に生きていく子どもたちが、広い世界で活躍するとともに住居のある足元の地域をも大切にしてくましく育つことを、学校が地域からなくなる場所の住民として願っています。 また、学校規模が大きくなる中でも、いろいろな配慮がされて一人一人が今以上に生き生き学び、成長していくことも期待しています。</p>			
37	29	1	コンセプトが2つ	<p>相良地区と榛原地区では学校施設のコンセプトが違いますが、旧相良町と旧榛原町の合併時の約束である一体性の確立を考えると、同一コンセプトであるべきだと思いますが、あえて別のコンセプトを採用した理由は、コミュニティ・スクール推進の上で、地域との関わりを重視するという観点からなのでしょうか？</p>	<p>・新しい学校は、子どもや教職員だけでなく地域の皆さんも一緒につくり、一緒に使っていく学校にしたいと考えています。地域の子どもたちを育む地域の学校です。それぞれの地域の思いをしっかりと反映できる学校施設にしたいと考えました。なお、整備方針や計画は両校共通となっています。</p>	なし	
38	28	3	開校時に再検討	<p>第3章 施設整備の方針(p12) 第2 学校施設のコンセプト ・「学校施設のコンセプトは、開校前に作る説明用の青写真の段階であるので、本案を参考にして今一度、開校前1年時に教職員、学校運営協議会メンバー、PTA代表、地域代表が協議して作成する。」の文言を入れておいていただきたい。</p>	<p>・このコンセプトは、学校施設のコンセプトであり教育目標ではありません。教育目標については、ご意見のとおり開校準備段階で検討するものであるため、計画に記載を追加します。</p>	第4章 推進に向けて 1段落目の「～を検討します。」の中に「教育目標」を追加	P58
39	28	4	表記修正	<p>第3章 施設整備の方針(p14) 第3 学校施設の整備方針 1 ワタシをつくる ・本項目の説明文書「子ども1人1人 → 子ども一人一人」だと思います。</p>	<p>・ご意見のとおりです。子ども一人一人に修正します。</p>	学校施設の整備方針1ワタシをつくるの説明文の表記を修正	P14
40	36	2	14 ワタシをつくる(整備方針) 打ち合わせ時間の確保	<p>第3 学校施設の整備方針 2 つながる「人・学び・体験」 (2) 教職員がつながる →教職員が「子どもについて語る時間」を確保できると良いと思います。授業後は先生を子どもから開放し、SSWやSC等と話し合う時間が必要です。</p>	<p>・教職員の働き方に配慮したつくりとします。設計時には、さらに具体的な内容について教職員の意見を伺い設計に反映していきます。</p>	なし	
41	9	1	17 エリアを指定しないもの 解説	<p>学校にかかわる人たちのことを考え、細かなところまで配慮された計画だと思います。義務教育学校開校への夢が広がってきます。 気になったところは以下の点です。 ・P.17 「プレゼンスペース」について注釈が必要</p>	<p>・プレゼンスペースについてはページの下部に注釈を追加します。</p>	プレゼンスペースの注釈を追加	P17

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
42	28	5	<p>【学校施設整備基本計画】 第1章 施設整備の基本計画(p19) 第1 ワタシをつくる 1 ワタシの居場所 (4)誰もが健やかに生活できる環境 ・トイレは、現在の生活様式に合わせ、主流となっている洋式トイレを基本とし、清掃しやすく清潔が保ちやすい乾式とします。の後半に「加えて、障がいをもった人も使用できるスタイルにします。」を追加</p>	<p>・トイレについては、20ページに「バリアフリートイレを各階に設置」と記載しています。バリアフリートイレは、障がいがある方、性的マイノリティの方など、あらゆる人が気兼ねなく使用できるトイレのことです。</p>	なし	
43	42	3	<p>19 誰もが健やかに生活できる環境</p> <p>・現在の学校のトイレは、目隠しに布カーテンを使用しているところが多いが、男子トイレも初めから個人のプライバシーが守られるように壁など配慮してほしい。(布物は悪臭の原因にもなり不衛生かと思う)温便座の採用も検討してほしい。(布製のシートを貼っているところもあり、不衛生と感じる)</p>	<p>・男子トイレのプライバシーの配慮については必要と考えます。また便座についても設計時の参考にさせていただきます。</p>	なし	
44	42	9	<p>喫煙場所</p> <p>・喫煙場所について 計画には記載が見当たらなかったように思いますが…。教職員・保護者の喫煙場所を考慮ください。敷地内禁煙は大前提だと思いますが、子どもを預かっている間の喫煙はいかがなものでしょうか？その間の子ども達の安全配慮はどのようになっているのかと疑問に思います。禁煙教育の基本として喫煙者の大人が美味しく煙草を吸い、元気そうであることが一番よくないとされています。まず、下校時間まで禁煙をお願いしたいです。 敷地内禁煙といえ、現榛原中学校では、正門前で喫煙する保護者やコーチなどがおり、学校に対する印象、風土など気になります。一般利用や災害時利用の体育館もありますので、表から見えないところへ喫煙所の配備も必要かもしれません。ご検討ください。</p>	<p>・学校は、健康増進法における敷地内禁煙の第一種施設です。しかしながら、特定屋外喫煙所を設ければ喫煙が可能となるため、今後検討していきます。</p>	なし	
45	1	1	<p>多様な子どもたちへの対応について、現在のさわやかなようなクラスに対して、問題のある子という概念を外して、入学時、あるいは進級時に親子で自由に選択できるしくみを設けて欲しい 普通と特別という分け方でなく、その子に合ったスタイルの学びができるような体制が必要だと思います 明治からの軍隊教育、工場作業員を育てる一律みんな言うことを聞く子、そんな時代は終わりました ひとりひとりがこれからの世の中で生産性を考えられる人材を育成してください</p>		なし	
46	36	9	<p>21多様な子どもへの 特性に応じた教育</p> <p>このように、障害児を健常児から明確に区別してしまうのではなく、両者を可能な限りともに同じ教室で学ばせるというやり方は、イェナプランに限らず、ほかのオールタナティブ校でも積極的に行われてきました。元来、こうした学校では、障害児がほかの健常児とは区別される存在であるという見方をしません。なぜなら、いわゆる「健常児」「普通の子」といわれる子どもたちも、それぞれに得意・不得意があり、好き嫌いや性格の個性があり、どの子一人をとってもあらゆる面で平均的に発達しているということはありえないからです。子どもをできる・できないで分けるのではなく、一人ひとりの子どもどこに強い面と弱い面があるかを見極め、それぞれがもつ強さを伸ばし、弱い面・まだ力が伸びきっていない面を刺激するという考え方は、教師が、教室に居並ぶ子どもたちを一絡げにして、無個性の子ども集団として捉える見方を抑制します。そして、この点が学校全体できちんと確立していれば、なんらかの心身の障害をもつ子だけを別に取り上げて、ほかの「普通の子」とは異なる特別な存在として区別する態度は生まれにくくなります。 リヒテルズ 直子, 菅野 一徳. 公教育をイチから考えよう (Japanese Edition) (pp.86-87). Kindle 版.</p>	<p>・16ページに「特別支援学級関係室は、特別支援学級での活動や通常学級との交流がしやすいよう、通常学級にアクセスしやすい場所とします。」と記載しています。 ・子どもたちにはそれぞれの個性や特性があります。多様性を尊重した教育を大切にしたいと現在の学校教育を進めています。新しい学校の整備方針の1つめとして「ワタシをつくる」とあります。これは、子どもたち一人一人のことで、子どもたち一人一人の個性や特性を大切に教育活動がしやすい施設としていきます。</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
47	36	4	<p>21多様な子どもへの 特性に応じた 教育</p> <p>【学校施設整備基本計画】 (3) 多様な子どもへの対応 1 障がいを持つ子どもや日本語指導が必要な子どもに対応したスペースの整備 ・障がいの状態や特性に応じた指導 ・外国籍又は日本国籍で日本語指導が必要な子ども  2 登校に不安がある子どもが安心できる居場所づくり ・教室に行くことが難しい子ども ・学校に行くことが難しい子ども  →環境整備の面での居場所づくりも大切だと思いますが、そういう状況になる前の配慮を手厚くするために、入学前の就学相談や福祉・子育て支援等との連携により、義務教育学校への「切れ目のない支援」が必要だと考えます。登校を渋る段階になる前にできることを「多職種の連携」で議論し、入学時の一斉授業、個別指導における、ユニバーサルデザイン、インクルージョン等の適切な考え方・導入をしてほしいと思います。(障がい児、外国籍、外国にルーツを持つ子どもへの対応)・・・福祉の視点を義務教育学校の教育課程に反映してください。</p>	<p>・施設はユニバーサルデザインで、インクルーシブ教育が充実できるつくりとします</p>	なし	
48	58	1	<p>PDFファイルでしたか私は視覚障害者であって、VoiceOverと言う機能を使ってiPhoneを使って情報を得ていますが、PDFだと何にも読み込まないのでその案を見てない状態です。ただ私は子供たちにいろんな体験をしてほしい情報がいっぱいある中で、こういう風になると、正しい個体を正しいというか、こういうこともやってああいうこともやって、失敗しながら自分なりの個体を導き出そうねって言うことに対して手助けして応援できる教育をお願いしたいなあと思います。 あと障害物を最初から取り除くではなく、すごく危険な命に関わるようなこれやると大変なことになるっていうことは取り外してもいいと思いますが、最初から危険だなあと大人が考えるものを取り除くんじゃなくて、子供たちの小さな失敗気づきをたくさん与えてあげて欲しいなあと思います またインクルーシブ教育とまでは行きませんが、同じ教室でできるとこまではやって、専門的教育は他の教室でやる健常者の人もこれはダメって言うと、保健室や職員室の1部分的な避難場所があるって聞いたことがあります。それとおんなじようにこういう時は、みんなでこういう時は専門的なお部屋でって言うような感じで教育をしてほしいと思います。今みたいに確実に障害の持っている子は支援学校って言う括りはやめてほしいと思います。手助けの方法というか、声をかけることさえできない人が多いです。</p>	<p>・子どもの特性や状態により、活動場所が選択できるようにしたいと考え、特別支援学級の子どもたちには、専門の部屋を整備しますが、通常学級でも活動しやすいよう離れた場所ではなく通常学級に近い場所に配置することとしました。ご指摘のとおり、インクルーシブ教育については今後も継続的に議論し、子どもたちに寄り添い、状況に応じて変更していくことができるようにします。</p>	なし	



■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
		21 多様な子どもへの対応	つづき そしてそういうことだけではなく、いろんな意味でグローバルな教育をお願いしたいです。世界基準といいますかマナー的なものも含めてそのようなことにやれて、自然にも触れ合えてと言うことをやれるといいんじゃないかなあと思ってます。私50代ですけど前半ですけど、私の小学校インクルーシブ教育の部分がありました。1クラス軽い障害を持った子どもたちがいる教室がありました。しかし運動会とか1つの授業とか、そういう時には、障害のある子が同じクラスに入っていたことを思い出します藤枝の高洲南小学校でした。今はどうなのかなあ知りませんが、しかも藤枝の養護学校今の支援学校だと思いますががすぐ近くにあって、障害のある人を小さな時から見ていました。そうすると自然に困っていきそうな時は声をかけている人たちが多かったような気がします。そんな風な当たり前の世の中になっただけほしいなあと思いますただそれだけです。全然教育案に沿った内容じゃないですけど、そのところお願いしたいなあと思ってます。何でもかんでも、大人教育者などが守ってぬくぬくと育てるのが良いと思ってません。音声で文字入力していますので、漢字がめちゃくちゃでしかもまとまらない文章というかおしゃべりですみませんでした。入力フォームなど全部読み上げずしかもテキストフィールドが見つからなく入力できずメールアドレスがあったのでこちらの方で入力しています。申し訳ございません。せっかくホームページLINEがあるのに全部読み上げない状態なのが辛いし入力もできないです。どうにかならないのかなあ。合理的配慮の範囲だとは思いますが、だめでしょうか？	(前項と同じ)	なし	
49	2	1	①外国籍・児童生徒の指導に関する部屋の確保等を計画に入れておく必要があると思います。			
50	28	6	日本語指導の部屋 第1章 施設整備の基本計画(p21) 第1 ワタシをつくる 2 ワタシが学ぶ (3)多様な子どもへの対応 ①に関して 現在の学校でも、外国籍の日本語指導にはたいへん苦慮しています。「安心な学校」をコンセプトにするならば、日本語指導がきちんとできる教室を設置すべきで、その指導者も必要数確保すべきと考えます。記述にあるような「会議室や相談室等の併用」は無理だと思います。9年制の義務教育支援学校となり将来を見すえた国際的な学校を目指すのであれば、きちんと指導できる国際ルーム等の名称で教室設置をしていただきたい。	・現在も日本語指導が必要な子どもたちへの指導を別室にて行っています。新しい学校には、少人数指導教室、会議室、相談室の他さまざまなサイズの部屋をつくり、学校の運用の中で適する部屋を日本語指導の部屋として指定する等、人数や指導内容により必要な部屋を選択できるようにしていきます。	なし	
51	28	7	相談室・こころの相談室 ②に関して 本項目には、不登校や不適応児童生徒のための適応指導教室(支援教室)の設置について具体を記載していただきたい。教室数、担当教員(正規、臨時的別)数を記して現教職員に向けて安心感を出していただきたいと思います。(浜岡中学校では、適応指導教室の運用を生徒のニーズに合った形として、生徒が登校する時間に担当する職員が付くスタイルを取っています。教室の大きさも図書室くらいあり、の複数の職員が常駐して体制を作っています。)	・(仮称)こころの相談室については、34ページに教室数が記載してあります。前期課程(1～6年生)用1部屋、後期過程(7～9年生)用1部屋を整備する予定です。教育支援センター(適応指導教室)は学校敷地外のため、本計画に記載するものではありません。また、本計画は施設の計画のため、運用面についても記載していません。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
52	4	5	相談室・こころの相談室 ①仮ということですが、「心の相談室」は、固くてネガティブな印象を持ちました。単なる私のアイデアですが、いくつか考えてみました。1ゆるりルーム、2きずなステーション、3ほっとスペース、4お話の庭、5なんでも相談ルーム できるだけ、子供たちが通いやすい名称、行くことが恥ずかしいと思いきい名称にして欲しいです。あと、デザインや内容も大変重要なので、明るく、落ち着く、子供たちがリラックスできるような空間を作りをお願いします。	・現在の中学校では、教室に行くことが難しい子どもたちのための場所として「(仮称)こころの相談室」という名称を使用しています。この計画の段階では混乱がないよう現在の名称を使用していますが、設計時または建設時には名称の変更を検討してまいります。 ・新しい施設は、全体的に子どもたちが居心地がよいと感じるつくりをしていきます。「(仮称)こころの相談室」が不安を抱える子どもたちの居場所となり、学ぶ場所となるようプライバシーに配慮したつくりや動線にしていきます。相談室についてもプライバシーに配慮します。	なし		
53	9	2					・P.34 「相談室」「こころの相談室」はプライバシーに配慮した遮音壁が欲しい
54	30	6	入学前 ・小学校入学を迎える未就学児への心のケアや環境への配慮はどのように考えているか？	・幼児教育との円滑な接続は大切だと考えていますので、教育的なつながりを確保するための仕組みづくりをしていきます。	なし		
55	30	4	不登校 ・現在不登校児童が増加しており学校が対処しきれていないのが現状です。大きな学校になって更に増えると予想される。結果教師が疲弊する、子どもたちのストレスも増す。現実をしっかり把握して子どもたちや保護者に理解と安心を与えるのが先決では。	・不登校は、全国的に増加しており、牧之原市でも同様に年々増加傾向にあり、かつ、その状況は多様化しています。その発生割合を見ると、学校規模の大小とは関係がありません。	なし		
56	22	1	21 多様な子どもへの対応 トイレ 多目的トイレがほしい(トイレ介助が必要な児童がいる)	・トイレについては、20ページに「バリアフリートイレを各階に設置」と記載しています。バリアフリートイレは、障がいがある方、性的マイノリティの方など、あらゆる人が気兼ねなく使用できるトイレのことです。(再掲)	なし		
57	22	2		エレベーター エレベーターについて 車椅子生徒、児童と介助者が乗れて、荷物も乗せれるものにして欲しい	・エレベーターは、障がいを持つ人や来客など人を乗せるだけでなく、給食のワゴンや荷物等も運ぶことができる仕様にする予定です。	なし	
58	22	3		シャワー シャワー室について 特別支援学級棟にもトイレ失敗する子が多いので、シャワー室をつけて欲しい	・インクルーシブ教育の観点からも特別支援学級を別の棟にせず、通常学級と交流しやすい配置とします。シャワーについては、保健室に整備する予定のものを使用できるようにします。	なし	
59	42	1		開校時の子どものケア 計画案作成にご尽力いただいている皆さんに敬意を称します。ありがとうございます。 2030年に義務教育学校となることで、子ども達含め取り巻く市民のくらしは大きく変化を伴うと思います。入学後の転校(統合)は、子ども達や保護者、先生方に多くのストレスも与えるとも思います。教育の本幹は元より、環境整備の面で細やかな配慮があることと思います。(統合に反対ということではありません。)気づいた点をいくつか記入いさせていただきます。 ・不登校生とやメンタルケアを必要とする生徒の増大の予想。養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、通訳、図書司書等の専門スタッフの増員配置をご検討いただきたい。(統合初期だけでも)合わせて、保健室の職員の配置人数、カウンセリングルームの余裕なスペースの確保、不登校生徒の登校する部屋を広めに確保してほしい。(カウンセリングルームなどは、会議室様ではなく、リラックスのできるような雰囲気のソファなどの配置もご検討してほしい。	・途中から学校環境が変わることは子どもたちにとって負担になると考えます。そのため、開校何年前から新しい学区の小中学校の子どもたち同士が顔の分かる関係ができるよう、現在行っている小中連携事業を推進していきます。 ・新しい学校では、学習支援サポーターの増員により低学年を2人体制で指導できるようにします。また、新しい学校では、現在の学校では巡回しているスクールカウンセラー、パイリンガル相談員、ALT、図書館司書等専門のスタッフが常駐することができるようになります。 ・教室に行くことが難しい子どもの部屋は(仮称)こころの相談室を整備する予定であり、仕様や備品については今後の検討となりますので、ご意見を参考にさせていただきます。	なし	
60	10	3	22 多様な学びができる柔軟な学習空間 収納スペース ICT機器も充実するにあたって、保管庫のスペースや置き勉の荷物の確保も考えてもらえると助かります。	・収納については、30ページの普通教室・オープンスペースの考え方に「可動式の家具や備品の採用、十分な収納スペースの確保をします。」と記載しています。また、38ページの廊下の考え方には「廊下や階段にもものがあふれることがないように、各所に収納ができる工夫をします」と記載しており、新しい学校では十分な収納スペースを確保したいと考えています。	なし		

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
61	36	5 22 多様な学びができる柔軟な学習空間	インクルーシブ教育 第2 つながる「人・学び・体験」 1 9年間が繋がる (1) 多様な学びができる柔軟な学習空間 ・特別支援学級関係室は、教室内の活動が充実するクローズ型の教室とします。 →インクルーシブ教育の議論を進め、支援・配慮が必要な子どもの学習権を保障するために通常学級と支援級に「分ける」として交流授業等で「混ぜる」こと、「混ぜた」場合にどのように配慮をするのか、そもそも常に同じクラスで過ごすことを前提にする・・・等を時間をかけて考えたいと思います。(合理的配慮を受けながら、合理的排除されないように)	・特別支援教育に関わっている教員へのアンケートや教育委員会内での協議の結果、子どもの特性や状態により、活動場所が選択できるようにしたいと考え、特別支援学級の子どもたちには、専用の部屋を整備しますが、通常学級でも活動しやすいよう離れた場所ではなく通常学級に近い場所に配置することとしました。ご意見のとおり、インクルーシブ教育については今後も継続的に議論し、子どもたちに寄り添い、状況に応じて対応していきます。	なし	
62	37	2	具体的な設計 「9年間の教育活動が充実する環境」の中に、「学年ごとの授業開始時間の違いや後期課程の定期試験時の遮音対策など、9学年の教育課程に配慮した配置や動線、建具等を工夫します。」とありますが、具体的にどうするのか、明確にはなっていない点に大きな不安があります。	・現場の教職員の意見や子どもたちの意見も聞き、安心して生活できる空間を設計していきます。	なし	
63	28	8 23 9年間の教育活動が充実する環境	特別教室数 第1章 施設整備の基本計画(p23) 第2 つながる「人・学び・体験」 1 9年間が繋がる (2) 9年間の教育活動が充実する環境 <4点目の項目に関して> 理科室、家庭科室、音楽室、美術室(図工室)の特別教室は、児童生徒の学びに応じた教室数が必要であって、それぞれが前期課程、後期課程の児童生徒を兼用させるスタイルは良くないと思います。吉田中学校の場合、生徒数800名に対して理科室は4クラスが必要であり、3, 4, 5, 6年生が学ぶ理科室も考えて設置しなければいけないと思います。このことは、現職の理科教師にヒヤリングをした結果でしょうか・・・?	・特別教室の数については、教育課程と開校時の学級数から必要数を算出しています。新しい学校は、普通教室を充実することでこれまでより多様な活動ができるようにしていきます。また、特別教室は家庭科室以外は前期過程と後期課程が分かれています。ただし、後期課程の教室を前期課程の子どもたちが使用できるようにするなど、共用使用など柔軟に使用していきたいと考えています。	なし	
64	28	9	体育館・プール <6点目の項目に関して> グラウンドの後ろに「体育館、プール」が入ると思います。	・基本計画のつくりとしては、最初に施設全体の考え方、その後に個別の施設の具体的な考え方を記載しています。「9年間の教育活動が充実する環境」には、小学生と中学生が共に過ごすことにより工夫することや配慮することなどを記載しています。体育館については、同項目の5点目に記載しており、プールについては前期課程の子どもが小プール、後期課程の子どもが大プールを使用するわけではないため、こちらには記載せず、39ページのプールの記載内容に入れています。	なし	
65	36	6	部活動指導 (2) 9年間の教育活動が充実する環境 授業、休み時間、部活動、放課後児童クラブなど、複数の学年や用途の違う活動が同時使用 →(前掲)部活動の指導	・現在の部活動が地域部活動に移行しても部活動としてグラウンド等を活用すると考えています。	なし	
66	28	10 24 コミュニケーションが取りやすく、効果的・効率的な執務環境	打ち合わせスペース 第1章 施設整備の基本計画(p24) 第2 つながる「人・学び・体験」 2 教職員が繋がる (1) コミュニケーションが取りやすく、効果的・効率的な執務環境 ・教員が機能的かつ学びの充実を提供できるように教科部室、学年部室の設置をします。(追加)	・各フロアに1つずつ教職員が作業や打ち合わせができる「教員コーナー」を設置します。そこで学年部会や教科部会等を行うことができると考えています。また、相談室、会議室、少人数指導教室等さまざまな大きさの部屋があるため、打ち合わせ内容や人数に応じて使用が可能です。	なし	
67	28	11 24 働きやすい環境の整備	休憩室 (2) 働きやすい環境の整備 ・妊娠している教員に対し、横になって休める休憩室として和室を設けます。(追加)	・24ページ、33ページに記載しているとおり、プライバシーに配慮した休憩室を整備します。更衣室にソファやベンチなどを置く等いろいろな方法が考えられますが、設計時や備品購入時に教職員の意見を取り入れて決定していきます。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
68	36	9	<p>【その他】 教育課程の自校の独立性→優先順位をつけて必要でないものをなくす 一斉授業の見直し→全否定するものではないがもう限界、担任一人がクラス全員を同じ時間に指導することの見直し 「やりがい」ではなくて、実際の勤務条件、仕事内容を突き詰めて働きたくなる職場を「教育課程」で示してほしい そのことが子どもへの最大の学習権の確保につながると思います 精神的・経済的・社会的・性的な相談、支援、ケアに対応する仕事は教員の業務外にして専門職を配置してほしい 現行の学校教育法の範囲でもできることはたくさんある 「若者世代の住みやすい環境づくり」という目標は、「よい学校づくり」と直結すると考えます。 【参考】 イェナプラン教育では、異年齢学級は、教師にとっても意味のあるものと捉えられています。すなわち、同質性に注目してしまう学年制から、異質性に注目する異年齢学級にすることによって、教師は子どもたちへの個別の対応をより意識するようになります。子どもたちの平均値に注目するのではなく、子どもたちのあいだの違いに注目せざるをえなくなるのです。 リヒテルズ 直子, 苫野 一徳. 公教育をイチから考えよう (Japanese Edition) (pp.83-84). Kindle 版.</p>	<p>・教職員が働きやすい環境をつくることは大切であると考えます。優先順位をつけて取り組む、教員でなければできない仕事、教員でなくてもできる仕事、専門家の対応が必要な仕事等を仕分け行うことは、教育活動や相談体制、地域協働の充実につながるため、今の学校から取り組んで行く必要があります。 ・部活動は地域移行していく予定で、教員は希望により指導するよう検討しています。</p>	なし		
69	12	1	24 働きやすい環境の整備				<p>体制</p> <p>校舎が新しくなり9年生までを見通した教育ができることに魅力を感じます。しかし、義務教育学校になることで教員の多忙化が進むなど、不安もあります。教員の負担ができるだけ少なくなることを望んでいます。</p>
70	36	7	<p>勤務時間</p> <p>2 教職員がつながる (1) コミュニケーションが取りやすく、効果的・効率的な執務環境 →子どもの自殺者が増えていること等への対応を 地域のすべての人が当事者に 時代は変わってきています。今こそ、学校が変わるときです。 ・「不登校」「暴力行為」「いじめ」過去最多 ・特別支援学級・学校在籍 過去最多 ・児童虐待 過去最多 ・教員の休職 過去最多 →教員の労働時間を守る・・・サービスで時間外労働をしない(給特法の議論を継続) 教職員の勤務時間外に児童生徒が登校しない、残っていないことを徹底してほしいです。</p>				
71	23	1	<p>部活動指導</p> <p>5年生以上が部活動参加になるのであれば、部活指導の負担が今より増えてしまうのではないかと思います。</p>				
72	37	3	<p>人数</p> <p>また、教職員の負担もかなり大きくなるのではないかと予想されます。現在でも十分な教員の数が確保されていないのに、更に定数が減らされ教師の負担が大きくなるのではないかと懸念されます。特に、小学5年生より、教科の専門授業をするということになれば、なおのこと、この課題は大きいものです。</p>				<p>・学級数により教員数が決まる仕組みは現在と変わらず、さらに定数が減ることはありません。逆に、人的支援は多くなります。県からは加配措置がされ教員が増え、学年主任なども置くことができるようになります。市としても、これまで学校を巡回していた専門スタッフを常駐させることができるようになり、子どもに関わる大人が増えます。一部教科担任制にすることは、子どもの充実した学びや教員の授業改善にもつながります。担当する教科時間数はバランスをとり負担が大きくなりすぎないように配分します。</p>
73	42	10	<p>・教職員の方々が教育に専念していただけるように、用務員の配置も必要かと思えます。CSDコミュニティスクールディレクターが用務員のような働き方になっている学校がありとても残念です。用務員のお仕事の必要性はあると思しますので、配備していただけたらと思えます。</p>	<p>・本計画は施設整備計画のため、支援体制については記載していませんが、現在、学校ではスクールサポートスタッフという印刷や環境整備を行ってくれる方がいます。地域開放にあたり管理人の配置も含め、地域開放の方法を検討する際に併せて検討していきます。</p>	なし		

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
74	2	2	CSルーム	<p>②コミュニティへの開放エリアが設定されていることは重要であると感じます。イメージとしては、CS関係者は自由に活用でき、それ以外の地域の方は体育施設のようにあらかじめ予約ををしてカギを借りにくるようなつくりとして、夜間や休日は校舎内をシャッターか扉で区切り、利用者がすべての校舎内を自由に歩き来できるようにするのを防ぐようにするものと想像します。</p> <p>地域の方が自由に使えるエリアの中には、体育施設や会合の部屋などが含まれると思いますが、先々のことを考えると以下のようなものも地域エリアに含まれていると良いと思います。</p> <p>ア教室くらいのサイズの多目的スペース(水道などもついた部屋)</p> <p>地域の方の主催で行われる学習会や講習会、料理教室などさまざまな活動に使えることを想定した部屋が良いと思います。</p> <p>「勉強なら教室、料理なら調理室を使えばいいじゃないか」という考えもあると思いますが、そうすると職員が校舎の鍵を開け、最後に閉める必要が出てきてしまいます。休日や夜間にも職員の手を借りずに、地域の方の意思で自由に使える部屋があるところがとても重要だと思います。職員の負担が増えるとかそういう意味ではなく「私たちの学校」という気持ちになるためには、自由に使える部分も設定されていることが大切だと思うのです。</p>	<p>・地域開放エリアには、CSルームの他、多目的ルーム、特別教室、体育館などが配置されます。特別教室については、現段階で地域の使用ニーズが多くありませんが、将来的にニーズが高まった際には地域の方も使用できるようにしていきます。</p> <p>・CSルームには地域の方が外から自由に入ることができるようにします。また、夜間平日の貸出業務がある場合は管理人等の配置も必要と考えています。</p> <p>・地域開放エリアと普通教室エリア、管理エリアは、夜間・休日などは仕切りなどで分け、行き来ができない仕様とします。</p>	なし	
75	36	8	25 地域と共に子どもを育むことができる環境	<p>3 地域や社会とつながる</p> <p>(1) 地域と共に子どもを育むことができる環境</p> <p>地域と学校の共育を推進するため、コミュニティ・スクール(CS)の活動の拠点となる地域活動室(以下CSルーム)を一般用昇降口付近につくるとともに、地域の人々が活発に情報交換やコミュニケーションを取り交流できる場となるような部屋を整備します。</p> <p>→とても良い考えだと思います。コミュニティ・スクールの力を教育課程編成に活かせると思います。</p>	<p>・地域の方も教職員も行きやすいCSルームとなるようにします。</p>	なし	
76	13	2	体験	<p>また、自然豊かな牧之原市の地域との協働も期待しています。豊かな自然の中での体験を存分に育ってほしいと願います。体験に勝る学習はないのでは…。(地域とともにわくわく学び…みんなの学校)</p>	<p>・地域の方とともに子どもたちを育みたいと考えています。多様な体験をしやすい施設としていきます。</p>	なし	
77	28	12	放課後児童クラブ	<p>第1章 施設整備の基本計画(p25)</p> <p>第2 つながる「人・学び・体験」</p> <p>3 地域や社会とつながる</p> <p>(2) 地域と共にある学校としてみんなが利用できる環境</p> <p>① 複合化する施設</p> <p>a 放課後児童クラブ</p> <p>・安定して支援員が確保できるようスタッフの充実を目指します。(追加)</p>	<p>・本計画は学校施設整備の計画のため、支援体制の内容は記載しません。</p>	なし	
78	28	13	管理	<p>② 多機能化による地域の利活用</p> <p>&lt;4点目項目に追加&gt;</p> <p>「…貸し出しや空調、『ソーラーシステムの導入』等の管理がしやすい…」</p> <p>※『』内を追加</p>	<p>・貸出業務には、鍵等の貸出だけでなく、貸し出した場所の空調が使用できるよう操作することが付随するため記載しています。ソーラーシステムは貸出とは関係しないため記載しません。</p>	なし	
79	28	14	26 地域性を活かした施設	<p>第1章 施設整備の基本計画(p26)</p> <p>第2 つながる「人・学び・体験」</p> <p>3 地域や社会とつながる</p> <p>(4) 地域性を活かした施設</p> <p>・スクールバスや雨天時の保護者の送迎で学校周辺が渋滞し、地区に迷惑を掛けないう道路事情を良好にします。(追加)</p>	<p>・渋滞対策については、39ページの「第2 屋外施設計画 (3)車路(ロータリー)・駐輪場・駐車場」に記載しています。</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
80	8	1	防犯 概ね賛成です。特に、解放感ある校舎作りがよいと思いました。地域の方が使える施設もあり、より地域密着型となる学校ができるのだと感じました。しかし、地域への解放スペースがある一方で、子供たちが学習中の防犯面に関して疑問を感じます。いつでも、誰でも入れる環境では、子供たちの安全について、教師として不安を感じます。	・防犯については、27ページに配置の工夫や防犯カメラに関する記載があります。「新しい学校づくり検討会」でも議論してきましたが、子どもたち、保護者、教職員の不安が解消できるよう、設計時には、さらに教職員や保護者、地域の皆さんのご意見を聞いていきたいと考えています。	なし	
81	28	15	27 誰もが安心して過ごせる安全な施設 治水対策 第1章 施設整備の基本計画(p27) 第3 ささえる 1 安全と安心 (1)誰もが安心して過ごせる安全な施設 <5点目に追加> 「・・・必要な洪水対策(『地元河川の整備、貯水池を設置する等』)を実施することで、学校『及び地区』の安全性を確保します。 ※ 上記文に2つの『』部を追加します。	・本計画は、学校施設整備の計画のため、敷地外についての内容を入れることはできませんが、地域の河川洪水対策については、地域の意見も聞きながら検討していきます。	なし	
82	28	16	安全対策 <8点目の文を以下のように改訂> ・開校に向けて、事前会議(学校、学校運営協議会、PTA代表、地区代表)を1年前までに設け、子どもの安全性が十分に担保できるよう準備します。	・開校に向けては、58ページに記載のとおり開校4～5年前から(仮称)開校準備委員会を設置し、必要な検討を行います。学校運営協議会については、現在の学校運営協議会を中心に別に検討する予定です。	なし	
83	28	37	27 誰もが安心して過ごせる安全な施設 ソーラーシステム・雨水利用 ・災害時の避難場所として機能するためにソーラーシステムや雨水による飲料水が確保できるような機器を設置しておきます。 ※ 上記の一文が入らないか？	・27ページ及び29ページに再生可能エネルギーについての記載がありますが、分かりやすいよう太陽光発電の記述を追加します。 ・雨水利用については、飲料用ではありませんが、現在のほとんどの学校にも体育館に雨水利用装置が整備されています。飲料水が確保できる雨水利用システムについては、設計時の検討とさせていただきます。	「太陽光発電」の記述を追加	P27 P29
84	28	17	28 維持管理しやすく長期的に使用できる施設 共済保険 第1章 施設整備の基本計画(p28) 第3 ささえる 2 長期的な使用 (1)維持管理しやすく長期的に使用できる施設 ※ 災害時不可抗力によって起こった破損や不備に対して対応できる建物共済保険への加入は市としてできませんか。(意見)	・現在の学校でも建物共済保険に加入しています。	なし	
85	28	18	29 脱炭素社会に配慮した環境にやさしい施設 雨水利活用 第1章 施設整備の基本計画(p29) 第3 ささえる 3 環境に優しい (1)脱炭素社会に配慮した環境にやさしい施設 <5点目文書に対して意見> ・・・再生可能エネルギー設備(発電・蓄電池・『雨水の利活用等』)を計画します。 ※ 上記『』部を追加 ※ 雨水を溜めてグラウンドへの散水や植物への水やり、災害時の浄化しての飲み水確保も考えて対応したい。(意見)	・雨水利用については、飲料用ではありませんが、現在のほとんどの学校にも体育館に雨水利用装置が整備されています。飲料水が確保できる雨水利用システムについては、設計時の検討とさせていただきます。(再掲) ・通常時の雨水の利活用については、設計時に検討します。	なし	
86	28	19	30 施設共通の考え方 配置 第2章 施設の考え方(p30) 施設共通の考え方 枠内4点目の「安全な配置計画」について一文を追加 ・・・交通渋滞等の緩和が図れるよう、『地区住民と共に話し合い適正な』配置や出入口等を工夫する。 ※ 上記『』部を追加	・渋滞緩和策については、39ページ「(3)車路(ロータリー)・駐輪場・駐車場」、44ページ及び51ページ(2)「配置の考え方」に記載しています。 ・配置や学校の出入口については、設計時の検討となります。本計画の58ページに「建築設計段階においては、学びやすく使いやすい施設となるよう、子どもや教職員だけでなく、保護者や地域の意見を聞く機会を設け、設計に反映できるように進めます。」と記載しています。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号		項目 (数字はページ数)		意見	回答	計画への反映	関連ページ	
87	28	20	33	保健室	設計	第2章 施設の考え方(p33) 第1 屋内施設計画 2 管理エリア (4)保健室 ※ 保健室は義務教育学校となった時、これまでの小中それぞれのニーズに合った環境とするために、具体的には現役の養護教諭にその設計を考えてもらう必要があると思います。(意見)	・本計画の策定過程にも教職員へのヒアリングを行っています。また、養護教諭については、実際に小中一貫校を視察に行ってもらいました。設計時には、養護教諭だけでなく、多くの教員の意見を聞いて進めます。	なし	
88	28	21	34	こころの相談室(仮)	数	第2章 施設の考え方(p34) 第1 屋内施設計画 2 管理エリア (7)こころの相談室(仮) <1点目の文に意見> ※ 現状の不登校、不適応児童生徒数からすれば2部屋では足りないのではないかと…? 不登校児童生徒との関わりにおいては、卓球等軽い運動ができるスペースがほしいので、ある程度の広さを考えたいです。(意見) ・人的環境として児童生徒のニーズに合わせて子ども3人に1人の指導者(支援員)が付けるようします。(追加)(前項p21(3)②の記述を参照)	・新しい学校の普通教室は、現在の普通教室より広くなります。その2部屋分を(仮称)こころの相談室として使用し、内部は備え付けのパーテーション等で仕切ることができるようにするなど工夫します。 ・不登校の子どもたちについてはさまざまな対応が必要になると考えます。そのため、相談室や特別教室なども含め状況に応じた利用ができるようにしていきます。 ・本計画は学校施設整備の計画のため、支援体制の内容は記載しません。(再掲)	なし	
89	9	3	34	その他の諸室	職員更衣室	・P.34 「職員更衣室」は防犯上、昇降口近くより職員室近くにあるほうがよい	・教職員への聞き取りの結果記載しています。しかし、設計時には改めて教職員の意見を聞き決定していきます。	なし	
90	28	22				第2章 施設の考え方(p34) 第1 屋内施設計画 2 管理エリア (9)その他の諸室 ②職員更衣室 <2点目の文に対する意見> ※ 妊娠をしている教員への配慮をするために更衣室の和室化やソファ等の設置を考えたい。	・プライバシーに配慮した職員の休憩場所を整備します。更衣室にソファやベンチなどを置く等いろいろな方法が考えられますが、設計時や備品購入時に教職員の意見を取り入れて決定していきます。(再掲)	なし	
91	10	2				給食	給食の配膳は各教室で行うイメージだろうか?	・給食については、基本的には各教室で配膳することを想定しています。	なし
92	2	3	35	特別教室	音楽室	イ音楽室 地域専用の音楽室が欲しいという意味ではなく、学校の音楽室と共用でももちろん構いません。 地域エリアを借用した地域の方が、音楽室にもはいるように音楽室を1階にしておくという案です。 部活動は今後ますます地域移行されます。運動部は休日の活動等を地域の方の指導で進める部も増えてきています。現状の施設でも借用していれば、地域の方に体育館のカギを渡すことも可能です。 しかし、吹奏楽部を休日に指導したいと言ってくる方がいても、その方に校舎のカギを渡すことはできません。職員室も教室もひとつながりになっているからです。したがって、吹奏楽部は地域の方にレッスンしていただく場合にも、カギの開け閉めを行うために教員がつかなければなりません。新しい義務教育学校では、あらゆる場面に自由度をもって地域人材が関わることを想定する必要があります。 そのためにも地域エリアに音楽室が隣接しており、地域用のカギで校舎に入った方が使えるようになっていることが大切だと考えます。	・音楽室は地域開放エリアへの配置を計画しています。おっしゃるとおり、現在の学校は構造上つながっているため自由度が高い開放が難しくなっています。新しい学校では、地域開放エリアと普通教室エリア、管理エリアは、夜間・休日などは仕切りなどで分け、行き来ができない仕様とするため、地域開放エリアには教職員がいなくても自由に地域の方に入ってもらえるようになります。また、管理人等鍵の受け渡しをするスタッフは必要と考えています。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
93	37	1	<p>「学校施設整備基本計画」のp40, 41の施設一覧を見て(特に特別教室など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理科室の数・・・相良3・榛原4</li> <li>・芸術教室の数・・・図工室1・美術室1</li> <li>・技術室の数・・・木工室1・電気室1</li> <li>・音楽室の数・・・前期用2・後期用1</li> <li>・家庭教室の数・・・調理室1・被服室1</li> <li>・体育館の数・・・大1・小1</li> <li>・グラウンドの数・・・大小</li> <li>・プールの数・・・大小</li> </ul> <p>この数を見ただけでも現実的にどう授業を展開していくのか理解ができません。現在の中学校教育を考えても理科室は各学年に1つつつ、美術室は最低でも2、音楽室は最低でも2は必要です。更に具体的に言えば、例えば理科室を例にとると、前の時間(または前日の放課後)を使って、教師は実験などの準備をする必要があります。それは当然教室が空いていなければできないことです。これに、小学生が利用するとなると、とても対応できるとは思えません。また、体育館、グラウンドなども同じことです。各学年、学級が十分に使えるとはどうしても思えません。</p>		なし	
94	28	23	<p>第2章 施設の考え方(p35) 第1 屋内施設計画 3 地域開放エリア (1)特別教室 【特別教室一覧】内の配置数の修正(意見) ○ 理科室 前期課程用、後期課程用それぞれに相良3学級榛原4学級を設置する。(意見) ※ 前期課程用と後期課程用では学習内容が異なり、10分の休み時間での実験用具等の準備や片付けは厳しい状況にある。この原案は、実際に現職の理科教師にそれぞれ(小中で)聞き取った結果でしょうか?</p>	<p>・教職員へのヒアリングでの意見も踏まえた上で、特別教室の数については、教育課程と開校時の学級数から必要数を算出しています。新しい学校は、普通教室を充実することでこれまでより多様な活動ができるようにしていきます。これまでの教室のあり方をベースに考えるのではなく、新しい時代の学びに対応できる柔軟な施設にしていきたいと考えています。</p>	なし	
95	28	24	<p>○ 芸術教室 図工室(前期課程) 武術室(後期課程)ともに1学級を2学級に増やす。(意見) ※ 小学校4学年、中学校?学年でそれぞれに3学級から5学級(MAX)で時間割を組んだ時に、それぞれの課程において1学級では足りなくなると思います。</p>			
96	28	25	<p>○ 家庭教室 調理室、被服室共に1学級から2学級を増やす。(意見) ※ 前期課程用のクラスと後期課程用のクラスが機能的に授業が進められるためには、時間割編成も考慮して1学級から2学級を増やしておきたいです。 ※ 特別教室一覧に記述された教室数については、現職の小中学校の先生方の意見を聞いて、しかも教務主任に時間割編成作業を念頭に打ち出した具体的な学級数でしょうか・・・?ここは、お金が掛かっても実質の運営状況を鑑みて決定しなければならない数ですので慎重に検討をしていただきたいと思います。何よりも主役は、子どもと教員です。共にストレスがなく、楽しく余裕を持って学習できる環境を作ることこそ第一に考えていただきたいと思います。</p>			
			<p>35 特別教室</p>			



■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
97	42	8 35 特別教室	家庭科室 ・将来、家庭科室も地域開放や自校給食も視野に含まれることは大変嬉しいですが、給食のない登校日はなるべく減らしてほしい(昼食が用意されていない子どもたちもいるので)ですが、地域に炊事場を開放してもらえることで、子ども食堂(地域の方とも食事)などを学校でできるようになると思います。 必要な場合、食べてこない子どもたちには朝食提供も視野に入れてほしいと思います。	・子ども食堂や朝食提供などについては、地域やコミュニティ・スクールの活動として実施しているところがあります。開放を前提とした施設とすることで、このような使用ニーズがあった時には活用していただけたと考えています。	なし	
98	3	1	全体 みんながくつろげるスペース(部屋)を作りたいです。	・基本計画の一つ目として、19ページの「第1 ワタシをつくる」の中に「1 ワタシの居場所」があり、「子どもがリフレッシュでき、居心地がよいと感じる場所をつくりたい」と記載しています。くつろげるスペースについては設計時に検討します。	なし	
99	3	3	36 交流スペース 地域の人と関われるスペース(部屋)を作りたいです。	・地域の人と関われることができるよう地域開放エリアを設けています。具体的な部屋としてはCSルームや多目的ルームがありますが、その他のスペース等については設計時に検討します。	なし	
100	28	26	CSルーム 第2章 施設の考え方(p36) 第1 屋内施設計画 3 地域開放エリア (1)交流スペース (2)地域活動室(CSルーム) ・出入口については、校舎内を移動して出入りするのではなく、外から自由にできるように配慮します。(追加)	・CSルームは教職員がいなくても自由に出入りできることを前提に考えています。17ページに「地域活動室は地域の方が活動する部屋のため、学校の教育活動時間の有無に関わらず常時開放」すること、「通常の子どもの昇降口とは別に、一般用の出入口や放課後児童クラブ用出入口など複数の出入口を整備」することが記載してあります。また、25ページには「CSルームを一般用昇降口付近につくる」としています。CSルームへの直接の出入口については、設計時にCSDや学校運営協議会の意見を聞き検討します。	なし	
101	35	4	36 放課後児童クラブ 場所 放課後児童クラブは徒歩通学の子は学校で、バス通学の子は各地域に学童をつくることで、保護者の負担を減らせると思います。	・厚生労働省は基本的に学校敷地内の学童の設置を推奨しています。新しい学校に必要な数の放課後児童クラブの部屋を確保しますが、その運営方法等については、放課後児童クラブ担当課が利用者の意見を聞き検討してまいります。	なし	
102	42	7	・放課後児童クラブ・・・徒歩通学圏内の児童に関しては、学校敷地内に配置でよいと思いますが、スクールバスの範囲の児童は、元の小学校の敷地内や元の児童クラブの周辺が良いのではと思います。児童クラブには送迎が必要です。保育園とのお迎えを考えると場所が離れることにより、働く保護者の負担は大きくなるのが予想されます。また、学童クラブが地域に残ることによって、地域のコミュニティとの繋がりも創設できる可能性を残せるかと思えます。時には、コミュニティの時間として、児童クラブ登録者以外も参加できるような活動も可能かと。建物の老朽化などで、元の場所での運営が難しい場合、他部署である子ども子育て課と協議し保育園のお迎え時間に余裕を持たせるなどの配慮をお願いしたいです。(小さい保育園児を迎えに行ってから、学童へのお迎えになると、駐車場で園児を車の中で待たせるなど危険行為も考えられますし、何人もの子どもを連れて学童へのお迎えを余儀なくされる場合があります。)			
103	9	4	37 防災倉庫 保管の区別 ・P.37 「防災倉庫」は市と学校のものを区別して保管できるような工夫が必要	・視察した学校では、学校と市の防災用の棚を分けて保管しているところもありました。設計時や備品購入時に教職員や地域の方に意見を聞きながら決めていきます。	なし	
104	28	28	37 メモリアルスペース 配置 第2章 施設の考え方(p37) 第1 屋内施設計画 3 地域開放エリア (4)その他地域開放スペースに整備するもの ③ メモリアルスペース ・地域の方が自由に参観できるよう配慮します。(追加)	・メモリアルスペースは地域開放エリアにあるため、地域の方が自由にいらしていただくことができます。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見 番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ペー ジ
105	28 29	37 学校図書 館	システム 第2章 施設の考え方(p37) 第1 屋内施設計画 4 エリアを指定しないもの (1)学校図書館 ・市の図書館や県の図書館とネットワークを結び貸し出しが両方からできるようにします。(追加)	・学校図書館については、学校司書と市の図書館職員に聞き取りをして記載しています。図書システムの整合等も含め検討する必要があり、図書館のあり方にも関わることであるため、学校施設の計画では記載しません。	なし	
106	36 3		地域開放 第4 エリアの考え方 1 エリアの分け方と動線の考え方 (3) 地域開放エリア (4) エリアを指定しないもの →学校図書館をぜひ地域開放してください。	・相良地域、榛原地域にそれぞれ図書館が整備されているため、学校図書館は、子ども主体で配置や利用方法を考えてほしいというのが新しい学校づくり検討会や学校司書の意見でした。その上で地域開放エリアに配置が可能な場合は地域開放も検討していきます。	なし	
107	42 2		配置 ・図書館を将来登校時生徒にいつでも開放し、地域への開放も視野に入れていただけていることはありがたい。図書室司書さんが、本の運び入れなどを考慮しまた、子ども達の貸し出し返却も考え、校舎の下階に配置いただけたらと思う。難しい場合、エレベーターからと駐車場からの動線(搬入がしやすく、雨にも濡れないなど)を考慮してほしい。	・本の整備がしやすい配置も考慮して設計します。	なし	
108	28 30	38 廊下・階 段	エレベーター 第2章 施設の考え方(p38) 第1 屋内施設計画 5 その他 (2)廊下・階段 ・給食の運搬用エレベータを人が乗れるタイプのものにして障がいをもった児童生徒も使えるようにします。(追加)	・20ページに「段差がなく、エレベーターやスロープなどにより誰もが安全で移動しやすい建物と敷地とします。」と記載しているとおり、エレベーターを設置し、給食のワゴンはそのエレベーターを兼用で使用できるようにします。	なし	
109	2 4	39 グラウンド	仕様 ③グラウンドについて 現在のグラウンドは砂埃問題と草問題に非常に悩まされています。 全面が樹脂でカバーされたグラウンドは魅力的ですが、コスト面では問題がありそうです。 グラウンドのトラックやフィールドなどの運動エリアは土とし、周囲を樹脂カバーしたらよいのではないかと考えます。 グラウンドがぬかるんだ場合でも、カバーされたエリアを使って体育ができますし、雑草や砂埃も一定程度軽減されます。またいざという時のための駐車エリアにも使えるかと思えます。	・グラウンドは表面が乾きやすく飛散しにくい土にしたいと考えていますが、詳細は設計時の検討となりますので、ご意見を参考にさせていただきます。	なし	
110	28 31		雨水利活用 第2章 施設の考え方(p39) 第2 屋外施設計画 (1)グラウンド ・散水については雨水等を溜め置き、上水道を使わなくても良いように節約を図ります。(追加)	・雨水の利活用については、設計時の検討とさせていただきます。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
111	28	27	39 プール 校外プールの利用 第2章 施設の考え方(p36) 第1 屋内施設計画 3 地域開放エリア (3)屋内運動施設(体育館・武道場) ※ プールは、市の施設を使って体育の授業(水泳の授業)を実施する。教育課程編成の工夫で年間を通して各学年の配当時数が消化できるようにする。基本2時間を1回として集中講義的に水泳の授業を行う。移動手段は、スクールバスを使う。(意見)	・プールについては、水泳の授業を行うかも含め検討した結果、新しい学校にプールをつくることとしています。	なし	
112	28	32	第2章 施設の考え方(p39) 第2 屋外施設計画 (2)プール ※ P36(3)でもふれたように経費の節約を考えれば、市のプールを1年掛けて1回2時間ずつの授業として教育課程を組み授業を回せば可能と思う。1年間に掛けてそれぞれの学年が10時間足らずであれば、各学年に割り振り授業を設定したらいかがでしょうか？移動は、市のバスを使用する。(意見)		なし	
113	28	33	39 車路(ロータリー)・駐輪場・駐車場 表記修正 第2章 施設の考え方(p39) 第2 屋外施設計画 (3)車路(ロータリー)・駐車場・駐車場 <2項目目の漢字> 複数箇所 → 複数箇所	・誤字のため修正します。	「箇所」に修正	P39
114	59	4	使用提案 4. 駐車場の整備について 普通車駐車場(245台)の整備について部活動などで雨あがりグラウンドが使用できない場合、学生が使用できるような構造にしたらどうか。イベントが開催できるような設計をお願いしたい。	・雨天時に軽い運動ができる半屋外スペースを整備します。駐車場の活用については設計や運用を検討する際の参考にさせていただきます。	なし	
115	35	6	遊具 遊具はあったほうが良いと思います。	・39ページに記載のとおり、遊具は整備する計画です。	なし	
116	3	2	畑・花壇 みんなが自由に育てられる畑(花壇)を作って欲しいです。	・25ページに記載のとおり、学校敷地内に地域と共に活動できるよう農園や花壇等を整備します。	なし	
117	28	34	39 その他外構 電気代 第2章 施設の考え方(p39) 第2 屋外施設計画 (4)その他外構 <3項目目の文を修正> ・・・を設置します。 → を設置すると共に電源確保をして電気代の節約を目指します。(修正)	・29ページに記載のとおり、Nearly ZEBを目指した環境に配慮した施設とします。 ・省エネルギー化と創エネルギーを両方行いますが、どのようなシステムや設備にしていくかは設計時の検討となります。	なし	
118	28	35	42 電気設備計画 システム 第2章 施設の考え方(p42) 第3 設備計画 (1)電気設備計画 <3項目目の文に追加> ・・・機器とします。加えて電源は、ソーラーシステムによる再生可能エネルギーを中心に賄います。(追加)		なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
119	59	1	<p>1. 令和5年5月26日から施行された新盛土法について、市の対応は盛土したために地域住民の安心・安全の確保しているのか。</p> <p>①盛土したところは白色になり安全を確保されるが、洪水ハザードマップでは盛土した面積(150m×140m=210,000㎡)に対しておおむね1m浸水すると仮定すると追い出された210,000㎡の雨水はどこに行くのか。</p> <p>②普通校舎南に新設する調整池は構内の雨水に対して貯水するが、山から流れてくる雨水に対して貯めることはしないので、調整池体積3,000㎡も①に加算される。この調整池があることで、7班まへの田んぼと下流域と遮断されてしまうのではないかと。3月の説明会のときは普通校舎を現体育館に作る。9月の説明会の図面は道路がありました。11月の平図面には、仁田新川と調整池の間隔が無くなっているのではないかと。牧之原市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画(案)ではページ51 (2)には配置計画を考えて洪水時・・・の配慮した配置とします。どのように配慮されているのかわからない。</p> <p>③仁田北側斜面から排水される水が盛土されることによって一部仁田新川への流れを阻害される。農業排水路が無くなる。(現体育館とアーチェリー広場の道路は洪水時排水路になっている。)仁田本線山側(自宅前)の排水路の機能が低下する。</p> <p>また小規模な洪水が発生した時③の仁田本線側の排水路から出る水は②の調整池(現在田んぼ)の場所で溜まるようになっている。盛土することによってこの排水機能対策が無くなってしまふ。代替の道路と並行に排水路を考えてほしい。</p> <p>④盛土をした場合のハザードマップを作成して市民に周知してもらいたい。(仁田公民館を新たに建設する場所を検討したい)</p>	<p>・新しく校舎を建設する場所は盛土しますが、学校敷地内の水を受けることができる大きさの調整池をつくります。グラウンド全体を調整池、地下貯留にするということも造成設計時に検討していきます。</p> <p>・盛土の高さについては、概ね1,000年に1度起きるおそれのある大雨(レベル2の河川洪水)でも浸水しない高さを計算して校舎や体育館を建設する場所は現校舎の高さより1.5m高くするとしていますが、実際は造成設計時に正確な高さを決めていきます。また、駐車場部分は現在の高さから変更しません。</p> <p>・仁田地域の治水については、市建設部が流域調査を行い、その結果を踏まえて対策を検討することとなっています。調査費用については、令和6年度の予算要求をしています。</p> <p>・道路の付け替えと併せて水路も付け替えます。付け替えにあたっては、水の流れを確認し、適切な排水ができるようします。</p>	なし	
120	59	2	<p>2. 洪水時の仁田浸水地域の具体的な対策を検討していきたい。</p> <p>①R5年11.29 仁田町内会からの意見質問への回答について効果的治水対策例として排水機場を検討すると述べていますが盛土した場合浸水地域の拡大は宅地になるのではないかと。機場は浸水地域が田んぼの場合ですので対策としては不適切ではないかと。また県道金谷線(勝間田川の堤防)があるので機場の設備を配置するには無理があるのではないかと。機場の設置場所(ゲート位置)が県道の東仁田側になる。</p> <p>洪水対策の第一は排水(流す)ではないかと。現中学仁田本線歩道下のUカルバート(幅2.5m深さ1.5m)は平成17. 18年ころ平成16年に災害対策としてできたと思います。それ以来仁田本線は冠水しても中学構内は冠水しなくなったのではないかと。</p> <p>②仁田新川の排水機能を向上させる。L型水路を採用(N値を上げ、水路断面を大きく)して排水機能を高める。</p> <p>③仁田町内会がかかえる雨水の分水嶺面積は270ヘクタールあるので上流域に遊水池を作る。</p> <p>④浸水対策についての市の回答(No.38) 回答欄に道路、水路については要望等に基づき、計画的に整備をすすめて・・・回答がでていますが、仁田町内会で要望書をまとめてから市が洪水・浸水対策を進めるか。私は本体工事で盛土する前に対策をしなければいけないと考えます。</p>	<p>・新しく校舎を建設する場所は盛土しますが、学校敷地内の水を受けることができる大きさの調整池をつくります。グラウンド全体を調整池、地下貯留にするということも造成設計時に検討していきます。</p> <p>・盛土の高さについては、概ね1,000年に1度起きるおそれのある大雨(レベル2の河川洪水)でも浸水しない高さを計算して校舎や体育館を建設する場所は現校舎の高さより1.5m高くするとしていますが、実際は造成設計時に正確な高さを決めていきます。また、駐車場部分は現在の高さから変更しません。</p> <p>・仁田地域の治水については、市建設部が流域調査を行い、その結果を踏まえて対策を検討することとなっています。調査費用については、令和6年度の予算要求をしています。</p> <p>・道路の付け替えと併せて水路も付け替えます。付け替えにあたっては、水の流れを確認し、適切な排水ができるようします。</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ		
121	59	3	51 造成の考え方(榛原)	盛土	3. すべて盛土工法ではなく、一部でも他の工法を選択し排水を遮らないことを考えてはどうか。 ①日本教育新聞に記載されている文部科学省「学校施設の被害・土砂災害対策事例集」を参考に地下(盛土部分)を直接排水するシステム。 ②日経で記載された佐賀県嬉野市塩田中学の高床構造。 ③内閣府のホームページに横浜市がテニスコートを遊水地につくり浸水した写真があります。内閣府が推奨している雨水貯留システム。テニスコートは浸水地域でいいのではないかと。 盛土高さ 現状高さから1.5mに決めた根拠を知りたい。1.0mでも十分ではないか。安全率を見ているのか知りたい。盛土高さが低減できれば工事費用が削減できる。	(前項のつづき)	なし	
122	59	5	51 配置計画の考え方(榛原)	渋滞対策	・建物周辺の交通環境へのご配慮ありがとうございます。現在でも周辺地域は雨天時に登下校の時間交通渋滞を起こしています。学校敷地内に右折侵入を禁止にするのはどうか。	・ルールとして右折進入禁止は有効だと考えますが、開校時の検討とします。	なし	
124	19	1	51 配置計画の考え方(榛原)	他施設利用による経費削減	現在整備中の多目的体育館との連携により一部施設を共有する等の検討を行えば整備費用を削減できると考える。2施設間の距離は2.5kmあり整備する学校施設との連携は困難である。今後人口減少が進展する中で維持コストを考えると費用対効果の面で疑問である。 今後市財政の余力がさらに限られていく中で新たな施設整備に拘泥するのではなく現状の施設をいかに活用していくか市当局の横連携により検討が必要である。	・多目的体育館や相良総合センターい〜らの隣接地への学校整備も検討しましたが、敷地面積の確保が難しく、かつ、造成費がかなり高額となることから教育効果や費用対効果を考慮した結果、最終的に大沢インターチェンジ北側周辺が学校用地となりました。 ・相良地域は相良総合グラウンド、榛原地域はぐりんぱるを、それぞれ市民利用との調整を図り活用していくことも検討します。	なし	
125	51	1	整備費用	財源	牧之原市は特に市民税が高いですが、新しい学校を作るお金はどこから出るのですか？市民の生活にさらに負担をかける事はないですか？	・学校施設整備については文部科学省の補助金がありますが、他の補助金等なるべく多くの補助金を活用できるようにしていきます。また、自治体の場合、起債という借入の仕組みがあり、国の補助対象分についてはその返済の一部を普通交付税として国から市に交付してくれるものもあります。事業費のすべてを市の予算でまかなうものではないことが分かるよう財源措置について記載します。 ・新しい学校を建てずに現在の学校を残した場合には、建築年数が経っているため大規模改修または建て替えが必要となりますが、その際の文部科学省の補助は新しい学校をつくる時より少なくなります。整備資格面積は学級数で決められてしまうため必要最小限のつくりでも全面積が対象にならない場合があり、負担割合自体も新しい学校が1/2に対して1/3となります。	補助金の活用を追加	P47 P56
126	55	2	整備費用	財源	・建設費は十分なのか。市民の負担は？第二の夕張にならないのか。何か言えば「金がない」と言う。			
127	59	5	整備費用	解体費用	5. 建設工事費削減について 解体費用が大きな金額であった。解体時搬出されるコンクリートガラを駐車場整備の路盤材に使用したらどうか。	・解体費用を削減するための工夫はしたいと考えていますが、現在の環境基準に適合し、かつ、再利用等ができるものがあれば活用していきます。	なし	
128	28	36	58 推進に向けて	計画の公表	第4章 推進に向けて(P58) 意見 ※ 工事施工計画は記載されていますが、上記(仮称)開校準備委員会も含め、令和6年(2024年)より令和14年(2032年)までの話し合い計画を具体的に記載していただきたい。特に学校施設再編室が企画するプランを教職員、保護者、地域住民がしっかり目を通して納得のいく計画とその進捗状況を確認しながら進めることは牧之原市民全員が参画しての学校づくりにつながるものと考えます。今後において、大変でしょうが事務局は、牧之原市民が新しい義務教育学校の開校に対してしっかり関心を持って進んで行くためにも、計画が透明性と説明責任を果たして行っていただければと思います。(意見)	・市民のみなさんに関心を持っていただくことは大変重要なことだと認識しています。随時情報を提供し、(仮称)開校準備委員会の進め方についても始める前に共有していきたいと考えています。	なし	
129	35	1	58 推進に向けて	開校準備(行事)	入学式・卒業式についてはそれぞれ一回ずつというふうに捉えましたが、小学校と中学校の区切りとして進級式を行うのはどうでしょうか。	・先進地の学校では、6年時に卒業式や7年時の入学式の代わりに節目の行事を行っているところがありました。行事については、58ページに記載している(仮称)開校準備委員会において、開校4～5年前から検討していきます。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ	
130	35	2	開校準備(カリキュラム)	授業の進むペースは他の公立校と揃えたほうが良いと思います。	・学習については、文部科学省が示す学年ごとの学習指導要領になりますので、全国の公立学校と同様になります	なし	
131	35	5	開校準備(制服等)	トイレのスリッパは廃止して、全学年上靴で出入りする様に統一するのが良いと思います。	・トイレは乾式とするため、上靴のまま入ることができるようになります。	なし	
132	35	7		体育館シューズと上靴を分けるのをやめて、普段から体育館シューズのような動きやすいものにする事で、避難時に動きやすく、保護者の買い替えの負担を減らせると思います。	・学用品の検討や校内のルールについては、開校4～5年前から(仮称)開校準備委員会で検討することになります。制服については、来年度から組織を立ち上げ市として検討してまいります。	なし	
133	35	8		全学年私服登校にすればどうでしょうか、又制服もあり、私服もありにするのはどうでしょうか。制服があるのであれば、ブレザーにして、スラックスをありにしてください。			
134	42	5		・制服・体操着に関して、統合を考慮し体操服の小中学校別の配色をできるだけ早く統一していくことが望ましいと思う。2030年6年間の猶予期間を持ち、新入学生は、中学校区内統一していくのが望ましいと考える。統合後に配色が違うことは、元の所属を強調する形となり子どもたちにとってよろしくないと思う。(運営の厳しいと思われる学生協においても在庫管理が少なく済むので良いのではないか。)			
				また、制服に関して、先日中学生の娘が寒さ対策のためズボンスタイルの制服を問い合わせたところ、「学生服(以前の男子用)でも登校は可」との回答を衣料用品店からいただいた。あまりにも乱暴な回答ではないかと思う。一昨年より榛原高校でも女子生徒のパンツスタイルが採用されている。今後の制服としてセーラー服は、防寒の機能性として問題がある。タイツは許可されたものの、ハーフパンツの下には履けないため、更衣が必要となる。制服の必要性から検討いただきたい。制服の場合は、女子のパンツスタイルも初めから選択肢に用意が必要と感じる。			
135	42	11	現在の子どもたちの教育環境	2030年に統合をする計画ですが、それまでにも在校生は存在しています。対応できるソフトの面などは、統合を待たずして実践していただけたらと思います。市民として、子ども達の教育環境をサポートしていけたらと思っています。より良い、教育環境で牧之原市の子ども達がのびやかに心豊かに成長していけるように願っています。			・平成31年3月に策定した「牧之原市望ましい教育のあり方に関する方針」には子どもたちに「次代を切り拓く力」を育むため、「キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクール」を進めるとしています。これに基づき、キャリア教育のプログラムをつくり実施、小中一貫教育は指定校を定め実践しています。コミュニティ・スクールも全校に設置し活動しています。ソフト面については今の子どもたちの教育充実のため積極的に実施していきます。
136	31	1	設計	方法	計画、設計は公開設計競技とすることを提案します。	・設計は、公募型プロポーザル方式とする予定です。	なし
137	30	1	周知等	市民参加方法	・市民との合意形成で計画を進めて欲しい。区の代表が出席し賛成同意してと言うが直接話を聞くと全く理解しておらずこちらからの質問に対して答えられない現状に驚かされている。自治会がしっかり機能していないのが問題であり行政による指導が必要です。これでも同意していると言えるのでしょうか?このまま計画を進めて果たして子どもたちや地域住民にとっての最善の利益となるのでしょうか。立ち止まってもっと時間をかけて下さい。	・「牧之原市政への市民参加に関する条例」に基づき市民参加機会を設けており、計画を作る際には、5つの項目のうち2つ以上を実施することとしています。計画案をまとめるにあたっては、市民代表で構成する会議体の他、意見交換会や説明会、ワークショップなどを実施してきました。パブリックコメントは、市民参加機会の1つの手法であり、広く意見を聞くことができるよう実施しています。また、本計画は学校施設整備の計画です。子どもや教職員、地域の方々にとって良かったと思える学校施設をつくるため、設計段階でもさらに意見を聞き進めていきます。	なし
				・パブコメでなく、対話型の話し合いを持つべき			
138	48	4					

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
139	5	1	老朽化した校舎、次第に増えていく空き教室、減少する生徒数、そういうものを身近に見ていますので、一つにまとめ上げていこうという計画自体に反対する気はありません。どのような校舎がどのような形で運用されるのかわからないことが不安です。積極的な情報開示を求めます。		なし	
140	30	8	・既存校舎存続と新校舎の予算比較について紙面上ではなく対面でしっかり丁寧な説明が必要です。借金＝税金、納税する市民は牧之原市から離れていくでしょう。			
141	46	1	計画案ですが、市民への周知や理解納得が大変低い状況のようです。市民意識調査では「学校再編の取り組みに関し知っているか」の質問に対し、知っているのは今年になっても66.4%に過ぎません。去年は56.3%なので少し増えてはいますが、牧之原市にとって過去にないような大きな事業規模であることを考慮すれば少な過ぎます。牧之原市は計画の策定に向け5年以上前から議論を進め、百数十回以上の説明会を開き4000人以上と議論協議したと言っているようですが、対象は“市・区・町内会の役員や教育関係者・PTA代表”が殆どで一般市民への周知や理解が全然不足しています。市民意識調査で「学校再編の取り組みを理解し納得していますか」と質問してみてはどうでしょうか。6割以上の方々が“ノー”と回答するはず。計画ありきで強引に進めるのはやめましょう。人口減少、少子高齢化、出生率の低下が牧之原市は県内でも悪い方です。こうしたことに対応する市政をお願いします。学校再編はこうしたことに拍車を掛けてしまいます。牧之原市に住みたいくなるような、「社会福祉」「教育」「医療」「地域活性」などに資源を配分し、若い世代から高齢者に至るまで牧之原市に住んでよかったと思えるような市政をぜひ期待します。国の補助金に易々のらないでください。	・周知については、広報まきのはら、市LINE、ホームページ、まきはぐの他、学校再編計画概要版や新しい学校づくりかわら版を全戸配布しています。また、より多くの方に知っていただけるよう学校のPTA総会や自治会の会合等でも情報提供させていただいたり、出前授業、保護者との意見交換、小学生や高校生とのワークショップ、市民を対象とした勉強会などを開催しています。さらに多くの方に知っていただけるよう、期限を設けず継続的に自治会、保護者等に対し、紙媒体、オンライン、対面等さまざまな方法で、多様な機会を活用し情報提供を行っていきます。	なし	
142	50	1	・私達がよく知らないうちに、どんどん決まっているようだが、本当に必要なことなのか、市民に広く知らせる努力をして欲しい。			
143	50	3	・学校をなくすことは、地域にとってとても重要なことなので、一部の人のみでなく広く知らせて、意見を聞いて欲しい。			
144	53	1	広報で、ときどき学校再編の会合のお知らせや便りは見るが、どのような話し合いになり、どうなったのかわかりにくい。			
145	56	1	川崎小は、地域から通いやすく人数もいるので、やめてしまうことは疑問です。大きな学校にするよさもわかりません。大事なことなので、住民への説明や理解を十分にしたいうえで進めてほしい。			
146	55	1	・市民への説明と理解していただくのが第一と私は考える。理解率は何%か。			
147	30	5	・小規模校のメリットデメリットをもっと提示し議論し合う場を設けてほしい。中一ギャップについても同様。	・来年度も市民と行政が共に学ぶ機会として勉強会の開催を予定していますので、勉強会のテーマの参考とさせていただきます。		なし
148	30	9	・基本構想・基本計画案に対しての細かい意見は対面での説明をきかないと中身を読んだだけでは理解できないのでぜひ報告会の前に説明会を開いてください。	・報告会前の説明は、保護者、高校生を対象にした意見交換会や、ご希望があった自治会の会合で情報提供させていただいています。説明の機会は、期限を設けず継続的に実施していきます。日程の関係で報告会前に実施できないところについては、ぜひ報告会でお聞きいただくか、その後の説明の機会にお越しいただきたいと思っています。	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
149	19	3	多目的体育館整備や今回の学校整備において相良地区の中心市街地の活性化と一体的に整備を検討しているそぶりが無いように感じている。中心市街地からは静岡鉄道のバスターミナルも移転し市街中心部の衰退が加速している中で交流人口を減らすような施設整備が続いているように感じる。相良地区の地域振興が軽視されている状況は座視できないが市商工会等と連携し現状の小中学校施設(解体後の用地活用でも可)を用いた中心市街地活性化施策の検討を行ってほしい。		なし	
150	20	1	跡地 学校跡地活用について、令和5年議員全員協議会において示された「牧之原市学校跡地利活用方向性案「素案」」では令和5年度中に方向性を決定するとあり、令和6年度以降に活用方向性を決定し令和11年度以降に応募条件を整理するとある。しかし学校施設の整備は令和10年からを予定しており開校は令和15年からとなっている。市の体制として学校整備にリソースが多く取られる中で民間事業者の誘致ができるとは到底思えない。学校施設整備開始までに旧校舎活用の方向性を決定しておく必要があると感じる。市当局の横連携とともに市町や議会のリーダーシップのもとに早期に方向性や中心市街地活性化策を検討していくべきである。	・跡地利活用については、地域のニーズも確認した上で、可能性調査を行い方向性を決定していきます。学校再編と並行して検討し、よりよいまちづくりの一つとなるようにしてまいります。	なし	
151	41	1	その他 学校再編検討方法 当構想・計画検討等いろいろな面で苦勞され、ご苦勞様です。 当案につきまして意見述べさせていただきます。 結論として、情報が不足(偏っていて?)していて、理解、判断が現時点難しいです。もう少し市民が関心を持ち内容が理解できるよう説明が必要と考えます。まず、メリット、夢のような構想が前面に出て期待感はあるが、比較ができない。将来、人口減少等で何かしなければ成り立たなくなっていく事は理解できます。しかし、市内2校案が妥当か？です。 各地域の事情、特色、ふれあい、生活等々大切にしなければならない事の検討がなされていないと思います。 事実、関係者主の進行で各地域で全く検討されてない。シミレーション、仮想PDCA等行い市民が理解でき対応できる状況には程遠いと考えます。 特に、建設地区から離れた地域では、各構想にはこれらが重要で、このまま進めるとは、特に建設地区から離れた地域では、後で後手の対応、不利益、混乱になるのではと危惧します。 少なくとも、最初からの進捗を理解してない市民には、5W1Hで、いつ、誰が、何を、何処で、どうする...等、そしていくら掛かる(費用対効果、維持管理...) 新構想での、メリット、デメリット、他の事例。 特に小中一貫校の例は少ないかと思っておりますので、慎重に進めて理解させてください。	・学校再編については、平成29・30年度に検討した「望ましい教育環境のあり方に関する方針」において牧之原市の目指す教育環境を明らかにしました。この方針に基づき、子どもたちには、予測困難な社会にあっても自分らしく生きることができ人間力と新しい価値を創造する力を合わせた「次代を切り拓く力」を育むことを目標と定め、「キャリア教育を軸とした小中一貫教育と社会全体で子どもを育てる仕組み」を推進しています。 そして、この取組の充実には、子どもたちの多様な人との触れ合いや体験等がしやすいようクラス替えができる環境と、9年間の系統的・連続的な教育をしやすい環境が必要であることから、令和元年度から市民との意見交換を重ね、市立小中学校10校を再編し、2校の適正規模の施設一体型義務教育学校とする「牧之原市未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画～学校再編計画」を令和4年3月に策定しています。 本計画については、これらに基づき、学校施設整備に係る考え方をまとめたものとなります。 ・学校再編計画の検討過程では、全小学校区を回って地域や保護者と意見交換会を行っています。意見交換会はワークショップ形式で行い、市民検討組織である「学校再編計画策定委員会」が目指す教育環境や市の現状をお伝えし、2校案についての市民の皆さんの意見を付箋に書き出してもらい、グループとしての方向性や質問などを発表してもらいました。意見交換会では発表していただいたすべての質問にお答えしています。 ご意見にある2校案賛成の中には1校と比べてという意見が多いとのことですが、それは意見交換会の参加者の付箋意見となっており、その付箋意見を基に対話をしています。付箋意見をまとめた一覧をご覧くださいと12校をそのまま残して欲しいという意見は少数であることも確認していただけます。 ・市民参加の方法は、対象や人数、意見をもらいたい内容により、選択する方法は変わります。対話をする場合は、最も効果的な対話となる規模となるようにしており、市民の代表で組織する検討会を設置したり、保護者、地域、教職員等がいる場所に職員が出向いたりして対話や協議をしています。	なし	
152	43	1	まずこの案がカジノと全くシンクロして進んでいる点がとても気になります、幸いカジノは立ち消えになりましたが同じ物差しで進んでいるのではないかと穿った見方をついしてしまいます。統合を否定はしませんが小学校はなるべく残してほしい、若い人たちが大きな学校のほうが学力的にも有利だと誤解している点も気になります。 「萩間小学校はいいね」と何度も耳にしました、これは環境と規模がよかったということでしょう、是非慎重に話を進めていってほしいと思います。			



■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見 番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ペー ジ
153	44	1 その他 学校再編検 討方法	<p>榛原中学に作るのは防災面からよくないです。ぐりんばるの敷地を転用するの が、大津波や洪水リスク、竜巻など、記憶の届く過去事例でないから安全と思 いたい間違いです。そもそもコメを作れるところに安全保障や食糧自給の地産地 消の観点からもだめです。在学中の学生生活の質の低下を防げます。こんな基 本的なことも理解できない大人が計画つくる学校には行きたくないです。 これからは分散化と少数をネットワークで連携する仕組みに変わっていくので、 今更大規模学校施設をつくるとか頭がおかしいとしか思えません、個性を伸ばす のに集団行動など必要ないです。chatGPTに聞けばわかるでしょ。中途半端な 知識の大人が計画するなら、小さいものを改良して、若いアップデートできた大 人がその都度計画したほうがいいですよ。コミュニティーがつぶれる現在、共通 目標を話し合いでつくりあげる過程こそ、教育的、地域コミュニティ強化につな がり、自分事として、地域システムを理解できると考えます。 根本的行政官僚的仕事の進め方から改めるべきですし、人材いないなら人事転 換や外部調達したほうがいいと思います。広報事前説明なしに30日でパブコメ終 了とか、まさにおじさん行政仕事の典型例です。 やってる感の証拠づくり、できたら老後私は関係ない職員の皆さん即死してくだ さい。誰のために人生かけて仕事しているか自問自答してください。</p>	(前項と同じ)	なし	
154	45	2	<p>②2020年10月に行われた9小学校区の市民意見交換会での「意見」一覧表が話 し合いで使われており、学校数について「2校案が多数」となっていますが、アン ケートをよく読むと先に1校案が出ていて、それに対して「1校より2校の方が良い」 という意見が多くなっているだけです。このアンケート結果を基本で2校案に決め たとしたら、この2点から、「学校再編計画策定委員会」の話し合いは成立しないと 思います。</p>			
155	48	1	<p>・地域のつながりを重視するなら、今の学区のままが最適。遠くなれば年配の方 は参加しなくなる。これまでも何回も“市民の皆さんの声”を聞いてきたというけれ ど、地域住民としての声を聞かれたことはない。お便りは時々届いてはいるが、 参加できる対話型の形の呼びかけは、なかったと思う。</p>			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
156	32	1	<p>以上が理由ですが、少し補足しますと、 (1)教育面について 教育面では①生徒の教育に与える影響の面と、②教職員に与える影響の面があるかと思えます。 ①生徒の教育面について。 市の文書では「こんなに素晴らしい教育ができます」ということが書かれていて、それ自体は素晴らしいものですが、その多くは現状のままでもできることです。義務教育学校(小中一貫)でなければできないことは殆どありません。 また、大規模校になれば返って失われるものも少なくありません。1学年1学級、少人数学級、小規模学校だからこそできる長所があるはずですが、それらは最初から短所だと決めつけています。切磋琢磨や競争が必要ならそれは中学からでも遅くは無いです。その先には高校があり、その先には社会や大学があり、切磋琢磨や競争の機会はいくらでもあります。 ②教職員の待遇 また、マンモス校で9年制になれば教職員の日常の業務はかなり複雑化し、これまで以上に疲弊する可能性があり、その結果、最も大事な生徒と触れあう時間が減るのは間違いないと思われま。</p>	<p>・文部科学省が示す学級数の標準は、小・中学校は、12～18学級となっており、1学年で換算すると小学校では2～3学級、中学校では4～6学級です。義務教育学校については、18～27学級を標準としていますが、統合する場合には18～36学級とすることができます。新しく作る義務教育学校は、相良地域は約900人で1学年3学級、榛原地域は1200人で1学年4学級となるため大規模校ではありません。 ・「望ましい教育環境のあり方に関する方針」の検討過程においては、小規模校・大規模校それぞれのメリット・デメリットを把握するとともに、学校現場や保護者の声を聞いています。文部科学省では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進しています。個別最適な学びとは、個々の学習状況に応じた学びであり、それに対応した指導は、少人数指導やICT機器を活用した個別学習などにより充実できます。協働的な学びでは、他者と学ぶことで異なる考えが組み合わさり、よりよい学びになります。小規模校では、きめ細かな個別対応ができますが、多様性への対応がしにくい面があります。新しい学校では、小規模校のよいところであるきめ細かな個別対応ができるよう指導方法や体制を検討していきます。 ・1クラスの人数の考え方は1クラスの上限が35人と現在も新しい学校も同様です。 1学年35人で1クラスのみという学校もこれまでの学校でありました。1学年40人であれば20人2クラスとなります。学年の人数が多いからクラス内の人数が多くなるということではありません。 また、新しい学校では低学年に学習支援サポーターを配置し、2人体制での対応を考えています。さらに、バイリンガル相談員やALT、心の相談員等、全校に常駐していなかった専門スタッフも常駐するようになり、多くの大人の目で見守ることが可能となります。 ・複数学級があることでクラス替えができるようになります。個人の能力を伸ばすことも大切ですが、いろいろな同級生と触れ合うことで、多様な価値観があることを知り、さまざまな体験を通して、個性や個々の力を活かして、協力してチャレンジすることができることも大切です。人数がいることで、活動内容に応じて、個人で行うこと、少人数で行うこと、大人数で行うことが選択でき活動の幅が広がります。それを社会に出て初めて経験するのではなく、義務教育学校にいるうちから社会とつながり、失敗体験もしながらチャレンジすることで、予測不可能なこれからの社会においても子どもたちが自分らしく生きることができる力が育まれると考えます。 ・設計にあたっては、体育館やグラウンドの使い方を検討した上で設計します。しかし、牧之原市が想定している学校規模の義務教育学校を視察した際には、スペースの問題で授業が合同になったり使用場所で不自由を感じているところはなく、子どもたちも休み時間にはのびのびと生活していました。 施設の設計をする際には、子どもたちの動線や必要面積を想定して設計するため、ソフトを充実するためのハードにしていきます。</p>	なし	
157	33	1	<p>子供の数が減ってきているので、一クラスの人数や学級数を維持するために学校を統合するということが、少ない人数ではだめなのか。少なれば教師の目も行き届くし、子供達の活躍の場も多いといえる。学校を大きくして人数を増やすと何がどう良くなるのか見えてこない。 1学年4クラスとして9学年36クラスでは、体育での運動場や体育館の使用でも不自由になるのではないかと。まして体育以外での使用や休み時間での使用も、制限されるのではないかと。放課後も小学生が運動場で遊んでから帰るということができなくなるように思う。(体育の授業や中学生の部活動のため)</p>			
158	45	3	<p>2. 今回の案の中で3学級以上となっていますが、文科省は2学級～3学級が標準となっています。3学級以上は訂正をお願いします。大規模校や過大規模校になります。</p>			
159	48	2	<p>・1クラスや1学年の人数を増やした方が、人とかかわりが増え、自分の考えを作りやすいというが、発達段階による。低学年のうちは、安心感が何よりで、少人数で目をかけ、手をかけて育てるのが良い。</p>			
160	55	4	<p>・小規模校は「何故」良くないのか。 ・大規模校は「何故」良いのか。</p>			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
161	57	1	<p>規模</p> <p>1 目的と背景 この「基本構想・基本計画」は市民からの要望で計画されたものではなく、「国からの公共施設マネジメント計画策定のためのものである。」ことを市民に周知することが必要である。つまり、牧之原市の大事な子どもたちのための学校再編計画ではないことを、どれだけ市民が知り、どれだけ理解できているか。を伝えるべきである。 また、本「構想・計画」には、具体的な牧之原市独自のビジョンが見えない。他市町でも通用するような「構想・計画」であり、読んでいても流れていってしまう。 小中学校10校を廃校にして、1200人越えの大規模な義務教育学校に再編することは、ほぼ全国に例のない大胆な計画であり、危険なことが予想されることをどれだけ理解できているだろうか。大規模校の良い実践例を知りたい。 私は47年間教育現場にいた者として、少なくとも行政の方よりも教育のことは経験から言えることがたくさんある。1クラス20人くらい(それ以下)の規模の学校は、子ども、保護者、教員にとって理想的な規模である。一人一人の子どもの顔が見える。名前もわかり、心に寄り添える。小さい時は、その位の規模で育てることが人間教育には必要である。温かい中で育てられた子どもは、やがて、大きく成長した時に、故郷に感謝の気持ちを持てるものだと、思える。今できているCSも、文科省で提案する前からできている学校が、牧之原市にはある。 子どもを地域が育てているし、地域も子どもから生きる元気をもらっている。その学校を地域からなくすことなどは、到底、考えられないのだが。歩いていけるところにある学校が無くなれば、もう取り返しはつかない。今の行政担当者は、その位の覚悟で進めているのでしょうか。</p>	(前項と同じ)	なし	
162	30	2	<p>その他</p> <p>・旧相良町は公民館活動を通して地域づくり、人づくりを深めその活動の場として公民館や学校を利用してきました。これからも人との絆をつないでいく意味でも菅山小学校は必要です。子どもたちが身近にいる事こそが区民の励み元気の源となっています。 地元の子供たちは地域で育てるそうあってほしい。</p>			
163	30	7	<p>・小学校は児童・校舎ともに既存のままにし小中一貫としての遠隔授業につないで他校との交流を深めればよいのでは？</p>			
164	32	1	<p>再編しない</p> <p>「牧之原市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画(案)」(以下、「基本構想・基本計画(案)」という)について市民の意見募集がありましたので申し上げます。 まずその前に、義務教育学校が7年後、あるいは10年後に実現するという記事を市の文書で見ましたが、義務教育学校創設がいつどいういう形で正式に決定されたのか(市議会の議決など)を知りたく、市のホームページ上を何度も探しましたが確認できませんでした。そこで、どこまでが決まったことで、どこからが計画案なのかよくわかりませんが、その点が不明なまま私見を申し述べさせていただきます。 1、結論 牧之原市は市内の小学校9校と中学校3校の計12校を3つの義務教育学校に統合する計画を進めていますが、白紙撤回を求めたいと思います。そして今後も12学校を維持して欲しいと思います。 2、理由 小中学校の統合を考える場合、大きく3つの点から検討する必要があるかと思えます。即ち、①教育面、②財政面、③小学校区の共同体の今後。</p>	<p>・学校区の検討は令和元年度～令和3年度に学校再編計画において検討しています。学校再編計画策定委員会は固定した人で検討していましたが、それ以外の意見交換会、説明会等は初めての方もいれば何度も来ていただいている方もいました。市民参加の機会が119回、延べ人数約4,300人から5,000件以上の意見をいただき計画をつくりました。 学校再編計画については、市議会との意見交換も実施し、市教育委員会が議決し、市として第3次牧之原市総合計画の重点戦略・プロジェクトとして進めているものです。安全で魅力ある新しい学校づくりに向けて努力してまいります。</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
165	32	1	<p>牧之原市の資料をある程度読ませて戴きました。たとえば、「未来の子どもたちのための新しい学校づくり計画」～学校再編計画～令和4年3月 「牧之原市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画【案】」令和6年〇月 牧之原市教育委員会。他です。</p> <p>しかし、上記3点についての検討が、①は不十分、②は極めて不十分、③は私が知る限り全く言及されておりません。にもかかわらず、最初から小中学校の統合ありきで話が進められてきた印象があります。統合すれば素晴らしい教育ができると、それだけを強調して来たように思います。財務省の教育費節約の意向を受けて同様なことが全国的に行われており、牧之原市でも多くの時間をかけて検討されて来たとのことですが、たとえ時間をかけても、最初から統合ありきで、内容不十分な検討によって、小さな市の最重要案件の1つとも言える小中学校統廃合という課題に決着をつけるのは極めて問題があると考えます。12の小中学校、特に組合学校を除く8つの小学校が一旦消えれば最早2度と戻ることはありませんし、小学校を中心とするそれぞれの共同体の衰退に加速がかかることは間違いありません。市の人口は急速に減り、税収も減ることになると思われま</p>			
166	32	1	<p>3、結び</p> <p>牧之原市は過疎の町とは言っても、関東、東海道という日本一の人口密集地域での過疎地です。住みやすい温暖な地域で、近隣にはそれなりに過密都市もあり、今後人が流入する可能性がないとは言えません。北海道、東北、九州のような全体的に人口が少ない地域とは異なります。</p> <p>また、過疎の町には1人あたりの土地が広いという利点もありますが、なぜそれを生かさないで、都会にあるようなマンモス学校をわざわざ作り、狭い構内に子供達を閉じ込めるのでしょうか。東京など人口密集地の子供達は否が応でも狭い場所に閉じ込められて日々ストレスがかかっていますが、それは子育てにはマイナスだと思います。土地に余裕のある牧之原市ではもっと空間的にゆとりのある学校作りをするべきだと思います。現状のまま(12校のまま)であれば、将来新しい校舎を小さめに建てたとしても1人当たりの面積が広い校舎や校庭でのびのびと育てることができ、それによってこそ心が広くゆとりのある子どもに育つのではないのでしょうか。何故わざわざ大都会の真似事をするのか理解に苦しみます。田舎の良さを忘れていると言わざるを得ません。</p> <p>以上、私の独断と偏見ですが、義務教育学校への併合には反対致します。</p>	(前項と同じ)	なし	
167	33	1	<p>歩いて通えるところに学校があるというのは小学生のためだけでなく、これから牧之原市で家庭を持つという若い世代にとっても魅力である。逆に言うと歩いて通うことのできないこの町(地域)でいいのか考えてしまうと思う。つまり地域の発展に繋がらない学校再編になる恐れがある。</p> <p>100年以上続いてきた伝統ある学校をなくしてしまうということは、地域にとって、また牧之原市にとっても大きな問題であると思う。一部の代表の人を集めて住民の意見を聞いたということにするのではなく、地区ごとに説明会を開くなど、多くの一般の住民に丁寧に説明して、理解をしてもらいながら進めて欲しい。まだまだよく知らないという人が大勢いる。</p>			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見 番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ペー ジ
168	34	1	<p>学校再編の見直しを切に希望します。 地域のコミュニティって何なのかをもう一度考え直していただきたい。 自助・共助・公助 自然災害の多い日本で最近はその三つに加えて 近助 という言葉が加わっているといえます。 地域コミュニティって何なのかをもう一度考えてくれませんか。 武井淳史著「地場教育」の巻頭に「首都圏に出て変化に追いつこうとしなかったら社会から取り残されてしまうのではないか?。」あなた方は本当にそんな風を感じていたのですね。 あなた方は公務員です。全て税金の範疇で行われています。 自分の足を使って地域の実情とか、環境とか いろいろな子供たち、保護者、近所のおじさん、おばさん・・といっぱい話をしてくれませんか。それがあなた方公務員の仕事です。 地域の学校を残しながら再編を考える・・という選択肢があってもいいと思います。今の学校を残しながら再編考えてよっ・・っていう市民も少なからずいると思います。ホームページもラインも大切なのはわかりますが、毎日その地域で生活している人たちと話をして下さい。 鈴木哲夫著「期限切れのおにぎり」是非読んでいただけませんか?。 遅くはないと思います。もう一度考えてください。</p>			
169	38	1	<p>特に小学生についてですが、これから生徒数が減るという理由があっても、一つの学校にしてしまうには地域として広すぎると考えています。 スクールバスを用意するから大丈夫という問題ではないと思います。</p>	(前項と同じ)	なし	
170	39	1	<p>・学校が大規模になると元旦の能登半島地震のような災害時に、学校を避難所として利用するのに距離的に住民にとって困難である。 ・学校は地域の中心的役割が大きいため地域のコミュニティがなくなるおそれがある。 ・子どもは地域の宝なので、歩いて登下校できることが大人と子どもの防犯や安心・信頼につながる。また牧之原市の郷土への愛着もわく。 ・子ども達は少人数クラスでのびのび学習し、地域の特性を理解継承したほうが牧之原市の将来の人財になるのではないか。 ・大きいものに圧倒されたり、大人数に萎縮する人もいるので、不登校や苛め等が心配です。 以上の理由から学校の規模を大きくするのではなく、各小学校の児童数を増加するよう考えていただきたいと思います。</p>			
171	50	2	<p>・歩いて通えるところにある細江小をなくしてしまうことは、細江地区の住民にとってデメリットの方が多いと思う。バス通学では新しく家を建てて住もうとする人が減る。</p>			
172	52	1	<p>今ある学校をそのまま残せば良いと思う。大きな学校にまとめる意味がわからない。いつこの計画が決まったか知らなかったです。</p>			

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
173	60	1	<p>再編しない</p> <p>そもそも市内の10の学校を廃校にし、2つの義務教育学校を作るという地域住民に関わる最重要なことを、広く周知もせず代表という名の一部の人だけで決定したのは全く納得がいきません。市内の小規模な学校でも100人を超え、それぞれ地域に根ざした教育活動をしているよさを市や教育委員会はきちんと受け止めてほしいと思います。その上でどうしても再編しかないというのなら、子どもの幸せを深く考え、地域住民の声に真摯に耳を傾けて対話を重ね、細かなステップを踏み丁寧に進めてほしいと思います。なぜ2校なのか、なぜ義務教育学校なのか、資料を読んでもその理由や必然性が伝わってきません。市民が置き去りにされたまま、学校跡地の活用などが議論されているのはおかしいです。昨年3月に市が招へいた京都の校長先生の講演を聞きましたが、都会の住宅地にある学校の再編と面積111平方キロメートルもある牧之原市の学校再編とは全く実情が異なるものではないでしょうか。新しい学校は防災施設としても使うといいますが、非常時にどうやってそこまで行けるというのですか。高齢化社会では、大きな立派な学校が一つあるよりも、近くてすぐに行ける場所が必要だと思います。総務省の公共施設マネジメント計画が学校再編の根っこにあり、公共施設の延べ床面積を減らしたいのだとは思いますが、10校もいっぺんになくすというのは、全国的にも例がないようです。もう一度原点に戻り、牧之原市の学校のあるべき姿を市民との対話を重ねて考えてください。</p>	(前項と同じ)	なし	
174	32	1	<p>再編に係る費用</p> <p>(2)財政面について 学校統合の本当の唯一の理由は財務省が求める教育費の節約にあると思われませんが、その大事な事実を私が知りうる限り正面きって公表、指摘、説明していません。これは市民に対してはなはだ不誠実だと思います。 従って、例えば今後50年間について、学校校舎等設備の建設費、改修費、教職員の人件費等がどれほどになるかについて、従来の12校のままの場合と3つの義務教育学校の場合に分けて丁寧に試算し比較対照したものを市民に提示するべきところ、それが行われていないように思います。私はそのような書類を見つけないことができませんでした。資料の中に学校建設費について一部数字がありました。全く不十分なものです。 従来の形(12校のまま)で学校校舎等設備の建設費、改修費、教職員の人件費等の節約をすれば、義務教育学校に統合した場合と比べて大差なしの結果が出るかも知れません。義務教育学校の場合、ことさら豪華な校舎(設備)にしたスクールバスの費用がかさむなどの話が聞かれます。しかしこれまでの説明の中ではこれらについて十分な試算が行われていないため正しい判断ができないと思われま。</p>	<p>・新しい学校を建てずに現在の学校を残した場合には、建築年数が経っているため大規模改修または建て替えが必要となりますが、その際の文部科学省の補助は新しい学校をつくる時より少なくなります。整備資格面積は学級数で決められてしまうため必要最小限のつくりでも全面積分が対象にならない場合があり、負担割合自体も新しい学校が1/2に対して1/3となります。(再掲)</p>	なし	

■牧之原市学校施設整備基本構想・基本計画(案)パブリックコメント 意見・回答一覧

No.	意見番号	項目 (数字はページ数)	意見	回答	計画への反映	関連ページ
175	45	1	<p>1. この案を決めていく話し合いの中の「学校再編計画策定委員会」2019年9月30日～2021年3月29日について</p> <p>①第1回使用の資料「児童生徒の推計(学校ごと)※牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針」と書いてある児童生徒数の表ですが、萩間小学校の予想が2018年129名、2020年134名、2025年81名、2030年75名となっています。2023年度は149名です。あと2年で81名になるとは思えません。</p> <p>2018年に作った表がたった5年で間違っています。牧之原市の少子化の基本が崩れています。</p>	<p>・児童生徒数の推計は、提示時期により算出の基礎としたデータが異なります。ご意見にある資料は「牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針」に掲載したデータで、平成30年3月に示された国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)の数字となります。社人研は、国勢調査の結果に基づき全国の市町村の人口推計をしています。これを活用し、市は直近の転出入等も含めさらに独自に推計をしています。学校再編計画の検討を始めた時には、最新の社人研のデータに基づいた市独自推計はなく、古い市独自推計では東日本大震災の影響が反映されていないためデータとして示すには適さないことから社人研のデータを活用したものです。</p> <p>しかし、令和2年度に各小学校区で意見交換をした際には、市独自推計や住民基本台帳上の人数(住民登録している人数)をお伝えしています。現在は、実際に一番近いと思われる住民基本台帳上の人数を活用し2029年度までの児童生徒数の推計をしており、それをお伝えしています。</p> <p>今後においても、実数や最新の推計を基に児童生徒数を算出し、適切な施設となるよう対応してまいります。</p>	なし	
176	55	3	<p>・今まで出ていた児童数の推計の間違いがあるが、確認しているか。</p>			
177	32	1	<p>その他</p> <p>地域</p> <p>(3)小学校区の共同体の今後について これまでの小学校区から学校が無くなった場合の共同体の将来像について言及がありません。教育には関係ないというならそれは余りにも無責任です。小学校が無くなれば共同体が衰退するのは目に見えています。国も地方も少子化対策の名の下に子どもを増やせ、人口を増やせと言いながら予算をつけています。しかし、その正反対の結果を生む政策(小中学校統合)を敢えてとろうとするならそれ相当の理由が必要だと思えます。しかし、説得的な説明が見当たりません。</p> <p>(4)総合的に考えて さて、以上3つの点について私なりにプラスマイナス0～10点まで点数を付けたとすると、①の教育面では-10、②の財政面では+0～5、③の共同体の衰退の面では-10くらいになると考えます。全体では-20～-15でしょうか。間違いなく大きくマイナスです。特に教育委員会が掲げる、「基本構想・基本計画(案)」は教育面に特化しているように思いますが、それさえプラス面が見いだせません。義務教育学校でなければならないことは殆どないからです。</p>	<p>・現在の小学校は閉校となりますが、地区の子どもたちが通う学校がなくなるわけではなく、地域が拡大したと捉えていただければと思います。また、地区のコミュニティ活動の多くは自治会が担っていただいております。自治会はなくなるわけではありませんので、引き続き活動をしていただきたいと思います。</p> <p>また、多くの保護者からは新しい学校への期待の声をいただいております。さらに、新しく義務教育学校をつくれた自治体では、若者の移住が増え、転出者が減ったという事例もありますので、牧之原市でも魅力ある学校をつくり人口が増えるように努力してまいります。</p>	なし	